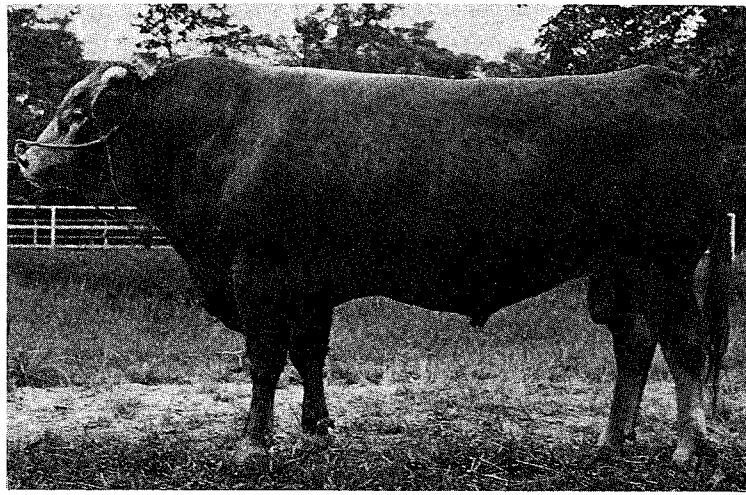
あか牛

（春を呼ぶ子牛）

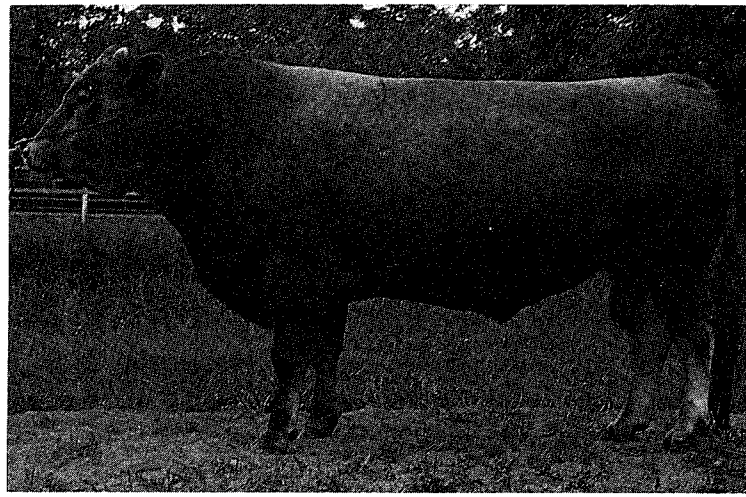
第50号

1983.1

社団法人 日本あか牛登録協会



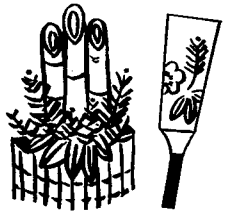
第十重川（1級569）



第二光泉（1級572）

あ　か　牛

（第50号）



1983・1

目　　次

○ 年頭の辞……会長　堀　　力……2

○ 「あか牛」と生産費低減……鹿児島大学教授　黒肥地一郎……4

○ 褐毛和種の世代間隔と世代に対する体尺測定値の回帰について……熊本県畜試　木場俊太郎……8

○ つりがね談義……長　崎　県　大崎　臭骨……18

○ 支部だより(対馬島と対馬あか牛増頭計画)　対馬支部　陶山　　潤……23

○ 枝肉共進会、共励会成績集……28

○ 産肉能力検定成績速報……34

○ 会　　報……36

○ 子牛市況……50

年頭の辞

会長　堀　　力

昭和58年の年頭にあたり、謹んで新年の御祝詞を申し上げます。

昨年は、本会創立30周年を迎え熊本市におきまして盛大な式典を挙行することができました。これも偏に、会員の皆様の「あか牛」に対するご熱意の賜であり、改良増殖が時代の変せんに伴って着実にその効果を上げていることは誠にご同慶にたえません。10年、20年、30年を節として考えますとき、本年は40年へのスタートの年であり、「あか牛」が国民生活へ貢献する役割を果すべく、関係機関のご支援をいただきながら、さらに皆様と共に努力し、飛躍発展の途を拓かなければならないと決意を新たにいたしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ところで、昨年の国内での肉用牛事情は、関係者の期待に反し枝肉市況は振わず、肉牛出荷の停滞による肥育農家の赤字経営、それが子牛価格の低迷へと連動し、一時的には上昇気運を見せながらも、１頭当り平均価格は25万円前後と、生産農家の手取り希望価格30万円を割り込み、価格安定基金協会の保証基準価格を下回ったために補給金の交付がなされました。

価格低迷の要因となっているものは幾つか考えられますが、自由化問題がかなり影響していることも疑う余地がありません。日本製小型乗用車の輸出が発端となって生じた日米経済摩擦でありながら、特に牛肉とかんきつ類があたかも摩擦解消のピンチヒッターであるかのように自由化を要求されていますが、私

共はその点ではどうも納得できません。ちなみに米国は世界最大の牛肉生産国（生産量約1,000万t）でありながら、反面では最大の輸入国（約64万t）です。輸出量はわずかに6万t程度にすぎません。この問題は、私共にとっては死活をかけた重大事でありますので、絶対阻止の体制で頑張らなければなりませんが、一方では国際競争力を除々に高めていくことが大切であります。そのためには、国民の好みにマッチする良質牛肉の生産とコスト低減でしょう。幸い「あか牛」は、草の利用性や増体能力など優れた特性をそなえた経済能力牛として、近年著しく定評を得るに至りました。さらに肉質の改善とバラツキの斉一化が当面の大きな課題ですので登録事業を通じてこれらの解決に努めて参りたいと思います。農林水産省当局も、肉用牛に対しては長期的方針のもとに振興合理化を図る必要性から、諸情勢の変化に対処し、国民への安定的供給と健全なる発展、貿易摩擦問題対策、畜産総合対策の推進、飼料基盤の整備強化、流通飼料対策、価格安定対策等に積極的に効率的実施を展開していくことを明らかにされましたので心強い限りで、その実効を大いに期待する次第です。

最後に、改良に専念されておられる生産者のかたがたにお願いしたいことは、古くからの格言に「人の往く裏に道あり花の山」というのがあります。アメリカの社会経済評論家ハンフリ・ネイル氏の「通説反対論」「反対思考」という著書があります。似たようなもので、反対にやれば報いられるという内容のものです。現在子牛価格が低落し、7月頃からは上昇する期待はしているものの今こそ改良斉一化のチャンスとして良い牛の導入と更新を図っていただければ報いられる時期が必ず来るものと信じます。

皆様のますますのご精進を願って年頭のごあいさつといたします。

「あか牛」と生産費低減

鹿児島大学教授　**黒肥地　一　郎**

1．生産費低減は現下の急務

わが国の肉用牛飼養農家にとって、現今における最大の関心事は、牛肉輸入自由化をめぐる日米間協議の成り行きである。

しかもその情勢は昨年来急速に厳しさを加えてきており、国際的な経済情勢に明るい有識者の間では、日米農産物交渉の目玉ともいえる牛肉輸入自由化が実現した場合は、これを突破口として、畜産物では牛乳(ロングライフミルク)、さらには米国産米輸入の自由化要求にまでエスカレートしてゆく可能性さえ危惧されている。（朝日新聞論壇、昭和57年５月25日）

仮りにこのような事態に陥れば、わが国農業の崩壊は避けられないことであり、変動する国際情勢の中で恒常的に食糧の安定供給を確保することなど期待すべくもない。

このようなことから、わが国における牛肉自由化の阻止は、単に肉用牛飼養農家の死活の問題に止まらず、わが国の農業を守り、食糧自給力の維持向上を図るため必須のことといわねばならない。

しかし、今後における牛肉自給力の維持向上は、単に牛肉輸入自由化阻止の努力によって実現できることではなく、併せて輸入牛肉に対する国産牛肉の競争力を少しでも付与することが必要であり、その有力な手段である生産費低減のための最大限の努力が必要である。

また、今後この努力が継続されない限り、国産牛肉に対して高値のイメージをいだいている一般消費者に、牛肉輸入自由化阻止についての理解や支持を求めることは難しく、また、生産費増大に伴う高価格国産牛肉の流通は、わが国に対して牛肉輸入自由化を迫る、外国及びこれに同調する国内の自由化賛成論者に、強力な口実を与えることになる可能性大である。

したがって、わが国の肉用牛飼養における当面の最重要課題は、技術的、経営的合理化によって、生産費低減と収益増大を図りながら、量質共に需要動向

に対応しうる牛肉の生産方式を確立することにほかならない。

それにもかかわらず、和牛経営においては、繁殖、肥育いずれの部門においても、その生産費は年々増加しているのが実情であり、まさに時代の要請に対して逆行しているものと言わざるをえない。

なお、このような傾向は、子牛価格及び枝肉価格の上昇が続いている時期には、和牛飼養農家にとって大きな問題ではないかもしれないが、今後における価格上昇の見通しが困難な昨今においては、まさに憂慮すべき問題である。

2．今後の対応

これらのことを踏まえた「あか牛」の改良、増殖、経営のあり方については、これまでもしばしば検討されてきたところである。しかし、これまでにない厳しい情勢を考えるとき、改めて今後のあり方を検討し、明確にしておく必要があるように思われる。

しかも、「あか牛」の改良、増殖及び経営安定は、いずれにしても、互いに他の二つのことが必要条件であり、今後「あか牛」による低コスト良質牛肉の生産を行うためには、いずれも避けて通れない問題であることは言うまでもない。

しかし、改良増殖は長期的問題であり、一方、生産費低減は時代の要請による極めて今日的な、当面の問題である。

したがって、これらの問題に対処してゆくためには、現在の「あか牛」の特性、能力及び経営の実態を、十分に、しかも客観的にみつめた上で、まず、生産費低減のための技術的、経営的方向を明確にして速かに実動に移すとともに、併せて、長期的展望に基づく改良増殖目標に向って不断の努力を重ねてゆく必要があろう。

3．生産費低減の着眼点

昨今においては、子牛及び枝肉価格の伸び悩みが続くなかで、多くの和牛飼養農家は、少しでも収益を増やそうとして、ひたすら販売価格を高めようと努力している。反面、生産費引き下げに努めている農家は、意外と少ないように思われる。

その理由は、和牛経営の収益性を高めるためには、生産物販売価格を高めることが必須であり、そのためには、生産費の増加はやむをえないものと考えている農家が多いからではなかろうか。

しかし、現在の牛の能力や特性を無視した飼養管理が行なわれている農家の場合は、生産費の増加に見合った子牛及び枝肉価格の上昇が期待できないため、価格は上昇しても収益においては反って低下していることが多い。

このようなことは、「あか牛」飼養農家においてもよくみられることである。したがって、これまでの「あか牛」の繁殖及び肥育経営を振り返ってみると、今後、生産費低減とともに収益性の増大を図りうる技術的、経営的可能性が多分に残されているように思われてならない。

そこで自分なりに、「あか牛」経営において考えられる、生産費低減の主な着眼点について再確認してみると、以下のようなことになりそうである。すなわち、

(1) 繁殖、育成においては、

1) 繁殖率、育成率の向上のため最大の努力をする。（１年１産、子牛の損耗防止）

2) 繁殖雌牛の耐用年数延長と低繁殖能力牛の早期更新に努める。

3) 「あか牛」の特性である、粗飼料利用性、放牧適性を活かし、飼料費節減と飼養管理の省力化に努める。（粗飼料生産基盤の確保と粗飼料主体の飼料給与、牛の生理、習性及び草地維持等を考慮した放牧の実施、放牧期間延長による貯蔵飼料依存度の軽減）

4) 過度な高栄養飼養の排除による飼料費の低減に努める。

5) 体重（栄養状態）重視の子牛評価が体成長重視の評価に改められるよう関係者において努力する。（子牛育成費の軽減、放牧育成牛の適正評価）

(2) 肥育においては、

1) 消費動向に則した良質牛肉生産を志向しながらも、「あか牛」の特性である増体能力を活かし、努めて肥育期間の短縮を図る。

2) 高度の脂肪交雑が十分に期待できる肥育牛は別として、普通の場合は、肉質よりも、飼料効率を基準とした最適仕上げ目標体重と肥育期間の設

定を行ない、それ以上の肥育を行なわないよう努める。

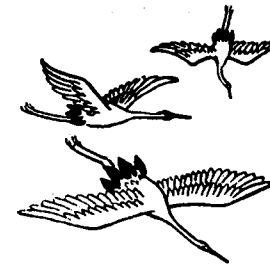
3) 良質粗飼料の取得が安易な場合は、「あか牛」の粗飼料利用性を活かし、前期粗飼料多給方式による肥育を行ない、飼料費の節減に努める。

4) 飼養環境の悪影響による肥育牛の能力低下を防ぎ、飼養管理の省力化を図るために、畜舎の構造及び規模について十分に配慮するとともに、畜舎に対する過剰投資を避けるよう極力努力する。

等であり、その外、消費者に対するＰＲ活動を通じて「あか牛」牛肉の消費拡大に努めること等、間接的効果を狙うものを含めると実に多くの着眼点がある。

しかし、これらは総て、これまでにも強調され既に周知のことであり、改めて確認してみたに過ぎない。

したがって、「あか牛」の飼養農家及び関係者としては、今更これらのことを知ることでなく、未だかってない厳しい情勢下における生産費低減の必然性を認識し、その実現に努力することこそが求められる姿勢であろう。



褐毛和種の世代間隔と
世代に対する体尺測定値の回帰について

熊本県畜産試験場

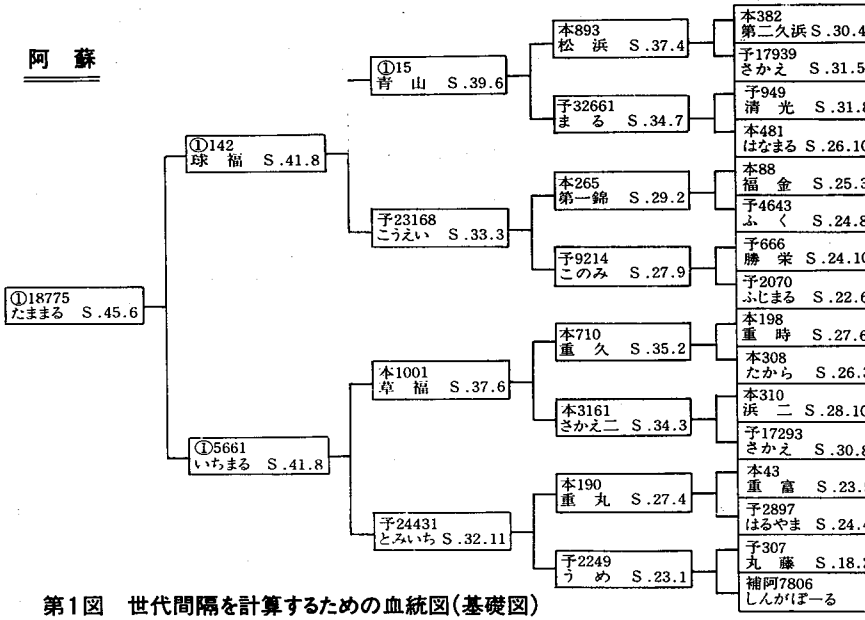
木　場　俊太郎

はじめに何故、表題の調査を行うに至ったのかということにふれておくと、私はかって、あか牛の血統分析による繁殖構造を調べたことがあり、本誌20号、及び22号にも発表させていただいたことがある。1世代当りの血縁係数や近交係数が、あか牛の集団としてどのように変化しているのかということを調べてみたのであるが、あか牛について、世代間隔は公表されたものが無く、いくつか公表されている牛の他の品種の数値を用いて分析しており、この点が気がかりになっていた。昭和52年夏、前会長の岡本正幹先生にお会いした際、「一度計算してみる必要がありますね」とおっしゃられ、その直後、「ついでに体尺測定値や審査得点の世代に対する回帰などを出してみてください。たいへん、意義深い仕事だと思いますよ」というお便りをいただいた。さっそく、登録協会の松川事務局長にも御協力いただき、登録牛の測尺値等の資料収集を行い、作業にはいったものの、後述のように面倒な作業で、家内の助けを借りて昭和54年の春におおかたの作業を終了した。しかし、この年の夏の異動で、この先の作業が中断し、今回やっとまとめることができたしだいである。

1．世代間隔について

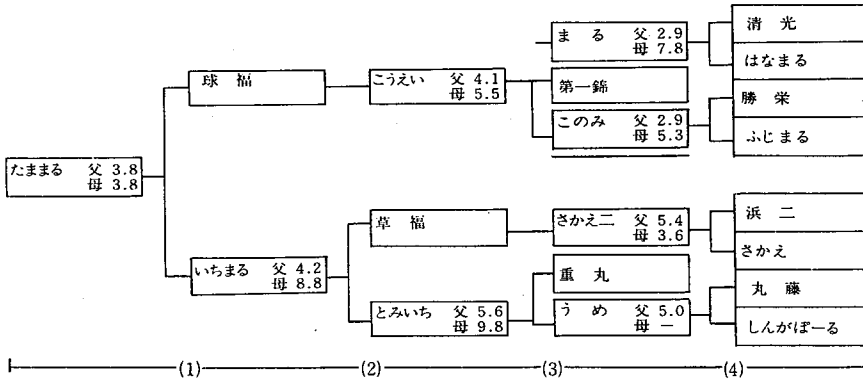
「世代」という言葉は、日頃なにげなく私たちも使っていて、「世代が違うから、連中の考えかたには理解ができないネェ」などという表現をしているが、この場合、時間的な長さというより、そのような意味を含めてムード的にかけ離れた事象を包括して表現する場合、一般的に使用されている。しかし、ここでいう「世代」とは、祖父母、父母子、孫といった系譜上の各世代のことを示すのであって、その間隔というのも、各世代の間で交代に要する期間を表すものである。具体的には、今回の調査方法で説明したほうが解りやすいと思う。

今回の調査では、まず、昭和50年に発行された褐毛和種登録簿から、県内に飼育されている雌牛を無作為に302頭、標本牛として抽出し、これら雌牛について4代さかのぼった血統図を作り、同時に、血統図に出現する牛の生年月を調べ、第1図に示すような基礎図を作成した。



第1図　世代間隔を計算するための血統図(基礎図)

つぎに、両親、祖父母さらにその上の世代において出現する雌牛のみを対象に、その雌牛が生れたときの両親牛の年齢を算出して、その数値を記入した径路図を作成した（第2図)。



第2図　各世代における雌牛の生時の両親の年齢(径路図)

世代間隔の推定値の計算は、各世代において出現する雌牛の生時における両親牛の年齢を基礎にして計算するが、第２図の場合では、別図の計算例のとおり、子↔両親世代間は 3.8 年、両親↔祖父母世代間は 6.5 年、その上の世代間は 6.3 年及び 4.8 年と計算され、４世代の平均した世代間隔は 5.3 年と推定される。ただ今回の調査では、最終的には昭和50年を起点に４世代さかのぼった県内のあか牛集団の状況を知りたかったものの、地域の状況もあわせて知りたかったために、地域毎の各世代の集団としてのまとまりと、県全体としての推移を求めてみてきたわけで、第２図の個体毎の径路図を地域毎に分けて、世代毎に父牛の径路及び母牛の径路毎に全てを加算して、この両者の平均をもって地域毎の世代の間隔を推定した。

子－両親　　たまま る

$$\frac{(父)3.8+(母)3.8}{2}=3.8(年)$$

両親－祖父母　　いちま る

$$\frac{(父)4.2+(母)8.8}{2}=6.5(年)$$

祖父母－祖々父母　　こうえい、とみいち

$$\left\{(父)\frac{4.1+5.6}{2}+(母)\frac{5.5+9.8}{2}\right\}\frac{1}{2}=6.3(年)$$

祖々父母－祖々々父母　　まる、このみ、さかえ二、うめ

$$\left\{(父)\frac{2.9+2.9+5.4+5.0}{4}+(母)\frac{7.8+5.3+3.6}{3}\right\}\frac{1}{2}=4.8(年)$$

世代間をプールした世代間隔の推定値

$$\left\{(父)\frac{3.8+4.2+5.6+4.1+2.9+2.9+5.4+5.0}{8}\right.$$
$$\left.+(母)\frac{3.8+8.8+5.6+9.8+7.8+5.3+3.6}{7}\right\}\frac{1}{2}=5.3(年)$$

別図　世代間隔を推定する計算例（第二図の場合）

県全体についても同様の算出方法により推定値を求めた。

このような計算方法で世代間隔を求めるのであれば、単純に考えると各世代において雌が生れ、この雌が次世代において雌の子牛を生んだ時までの期間の差を求めればよいのではないかと考えられる方もあろうかと思われるが、高等な生物の場合、雄と雌という二つの性があり、有性生殖を行う場合は、雄も遺

伝的な役割の50%は持っているため、雌を介して計算しなければならず、少々面倒なことになる。

ところで、世代間隔なるものを明らかにしておくことの必要性だが、ただ単にある品種の状況はこうなっているという学術上の参考として捉えておくということもあるが、私たちが家畜の育種改良を進めていく場合に、親の世代から子の世代へは遺伝的な量的または質的な変化が必ず現われていて、ここには改良に関係された先駆者のなみなみならぬ努力も集積されているのである。あか牛に関しても、明治年代後期での洋種交雑、大正年代末の肥後赤牛の認定を改良の基礎に、今日まで50余年の間、役肉牛から肉用牛への改良の過程があり、審査標準も段階的な改良目標にしたがい改訂がなされている。このような目標がなされていくなかで、あか牛は、これらの目標に向かってどのように改良が進められていくのか、また目標に向かってどの位の年数で達し得るのであろうかというようなことを考える場合、改良された数値を測る場合のモノサシとなるものが要るわけで、このモノサシとなるのが世代間隔という数値であることになる。

今回、昭和50年を起点として4世代さかのぼって計算した教値を、県内の7つの地域に分けて整理したのが第1表である。これをみると、各世代において雌牛の生時における両親の年齢では、父牛のほうが母牛より若く、かつ世代をさかのぼるにしたがって若くなっている。このことは、昭和45年頃から、産肉能力検定等の成績による種雄牛の選定がなされ、特定の種雄牛が凍結精液の利用を含めて長期に供用されたことによるのではないかと考えられる。一方、母牛のほうは、玉名、鹿本、阿蘇、上益城のいくつかの世代で年齢が高くなっているものの、県全体でみると、ほぼ一定の数値とみてよく、早期種付とか分娩間隔の短縮といった飼養技術上の影響が世代の経過に伴いみられるのではないかといった考えは否定された。むしろ連産性の高い雌牛が長期にわたって子牛を生産しているものと考えられる。これらの数値から、昭和50年から4世代さかのぼった平均世代間は4.9年と推定された。この数値は、いくつか公表されている国内外の肉牛の数値に比べ、ほぼ同一値か、若干短かいものといえる。

世代間隔の数値の長短については、短いほうが改良の速度が早められるということで望ましく、昨今、話題になっているわが国の豚の系統造成推進事業に

第1表　生時における両親の年齢及び平均世代間隔

（年）

地　域	ライン	1	2	3	4
玉　名	父	3.3	4.07±1.82	4.78±1.74	3.91±1.42
	母	5.17±2.11	6.21±3.50	5.29±2.71	5.08±2.78
	平　均	5.07±2.03	5.30±2.99	5.04±2.25	4.47±2.23
鹿　本	父	5.08±2.00	5.24±2.36	4.27±1.89	4.23±1.54
	母	6.11±2.86	5.34±2.81	6.02±2.63	4.90±2.20
	平　均	5.97±2.79	5.30±2.63	5.26±2.48	4.56±1.92
菊　池	父	4.71±2.98	5.54±2.96	4.21±1.86	4.11±1.45
	母	5.58±2.90	5.24±2.36	4.99±2.34	5.12±2.42
	平　均	5.33±2.89	5.38±2.62	4.61±2.13	4.57±2.01
阿　蘇	父	5.29±1.93	4.98±2.14	4.20±1.69	4.01±1.29
	母	6.19±3.31	7.13±3.14	5.87±3.06	5.29±2.43
	平　均	6.05±3.11	6.31±2.99	5.16±2.68	4.72±2.11
下益城	父	4.93±1.78	5.94±2.75	4.63±2.06	4.20±1.71
	母	5.30±2.77	5.54±3.13	5.97±2.95	5.69±2.55
	平　均	5.23±2.60	5.71±2.98	5.27±2.58	4.69±2.16
上益城	父	4.91±2.84	5.06±2.27	4.15±1.72	4.11±1.67
	母	6.13±3.38	4.68±2.30	6.00±2.17	5.87±2.98
	平　均	5.93±3.27	4.81±2.28	5.28±2.19	5.01±2.58
球　磨	父	6.04±2.29	4.73±2.55	4.78±1.93	4.18±1.66
	母	5.18±2.88	5.40±2.55	6.44±2.98	5.33±2.46
	平　均	5.27±2.81	5.19±2.54	5.76±2.77	4.83±2.21
計	父	5.10±2.34	5.11±2.48	4.38±1.85	4.10±1.55
	母	5.78±3.07	5.91±3.35	5.72±2.79	5.39±2.47
	平　均	5.44	5.51	5.05	4.75

全期間：父牛の平均年齢　4.39
　　母牛の平均年齢　5.58
　　平均世代間隔　4.99

おいては、初産豚でもって世代を交代させることにしており、この場合の世代間隔は一年ということになる。しかし、牛の場合は育成、妊娠期間も長いうえに、子牛が一般的に1頭しか生れず、さらに種雄牛の能力検定にも時間がかかるので、実際上は5年位の数値になるものと考えられる。

しからば長くなるものは望ましくないのかということであるが、改良の過程がある程度進んできている家畜集団のなかでは、そうも言えないようで、前にも述べたように、優れた能力を持った種雄牛が凍結精液の利用を含めて長期に供用される場合とか、望ましい遺伝形質を持った種雌牛で連産性に富み、高齢に至るまで雌を生みつづける場合には長くなるわけで、この場合は、改良の目標水準値またはそれに近いものを長期にわたって生産していくのだから、10年とか20年とかの期間をとって遺伝的な改良量をみると、集団としては改良が進んでいることになる。

ここで余談になるが、先般、俳優のU氏70歳と30歳の夫人との間に二世が誕生したというニュースが大々的に報道されたことがある。世代間隔という観点からは、日本人の場合の約2倍の50年ということになる。この二世の健闘を期待する次第である。

2．世代に対する体尺測定値の回帰について

昭和50年を起点に4世代さかのぼった世代間隔が推定されたので、この世代間隔に基づきさかのぼって年次をみると、昭和44年中間、昭和39年初期、昭和34年初期及び昭和29年中期が世代の該当年次ということになる。そこで、この時期に登録を受審した雌牛の体尺測定値を、各世代100頭分づつを集め、世代の経過に伴う体尺測定値の変化、すなわち1世代当りの体型上の改良量の推定を試みた。しかし第2表に示したとおり、各年次における登録受審月齢が異なっているため、データの標準化をする必要があり、各年次毎に雌牛個体の体尺測定値を用いて、修正指数曲線（成長曲線）を作り、また登録協会発行の発育曲線との整合性をみながら個体毎に24ヵ月齢の数値に換算した。第3表に換算した数値を示したが、これによると、さきに登録協会で昭和30年以降5年毎の登録牛の体尺測定値を調査し公表されているが、この数値とこの換算した数値との整合性はあるものと考えられた。

第2表　各世代における体尺値

(cm)

	I	II	III	IV	V
	昭和50年	昭和44年	昭和39年	昭和34年	昭和29年
生後月齢	22.5±3.1	23.5±4.7	25.4±4.0	26.0±4.0	26.1±4.3
体高	124.2±3.2	123.6±5.1	125.1±2.0	125.2±2.5	124.0±2.4
胸囲	186.5±6.1	185.2±5.1	185.1±5.1	179.9±3.0	177.5±6.8
寛幅	45.5±1.9	45.8±1.8	45.8±3.9	44.5±1.9	44.3±1.7
体長	(148.3±4.9)	146.2±4.3	148.7±3.9	146.2±5.3	144.2±5.0
腰角幅	(49.4±1.9)	48.9±2.0	49.1±1.6	43.2±1.9	47.6±2.2
胸深	(66.1±2.7)	65.5±2.2	65.4±1.8	64.3±2.0	64.6±2.1
管囲	(16.8±0.9)	16.8±0.5	16.9±0.9	16.7±1.7	16.8±0.6

(　　)：24ヵ月齢牛27頭実測値

第3表　各世代における24ヵ月齢値に補正した体尺値

(cm)

	I	II	III	IV	V
	昭和50年	昭和44年	昭和39年	昭和34年	昭和29年
体高	125.0±2.7	124.2±2.4	124.2±2.5	123.7±2.9	123.2±2.5
胸囲	189.5±7.4	187.9±6.4	183.3±6.8	175.4±7.3	175.4±6.9
寛幅	46.3±2.5	46.3±2.4	45.3±2.2	43.9±2.2	43.8±2.5
体長	(148.3±4.9)	147.3±5.2	146.9±4.9	144.8±11.5	141.4±0.9
腰角幅	(49.4±1.9)	49.6±1.9	48.3±1.6	46.9±2.2	46.4±1.9
胸深	(66.1±2.7)	65.8±2.5	64.4±2.1	63.4±2.3	63.6±2.2
管囲	(16.8±0.9)	17.0±0.7	16.7±1.5	16.4±1.7	16.4±1.5

(　　)：24ヵ月齢27頭の実測値

昭和50年には測尺部位が、体高、胸囲、寛幅のみになっているため、他の部位については当場他で集めた24ヵ月齢の実測値を参考として記載してある。

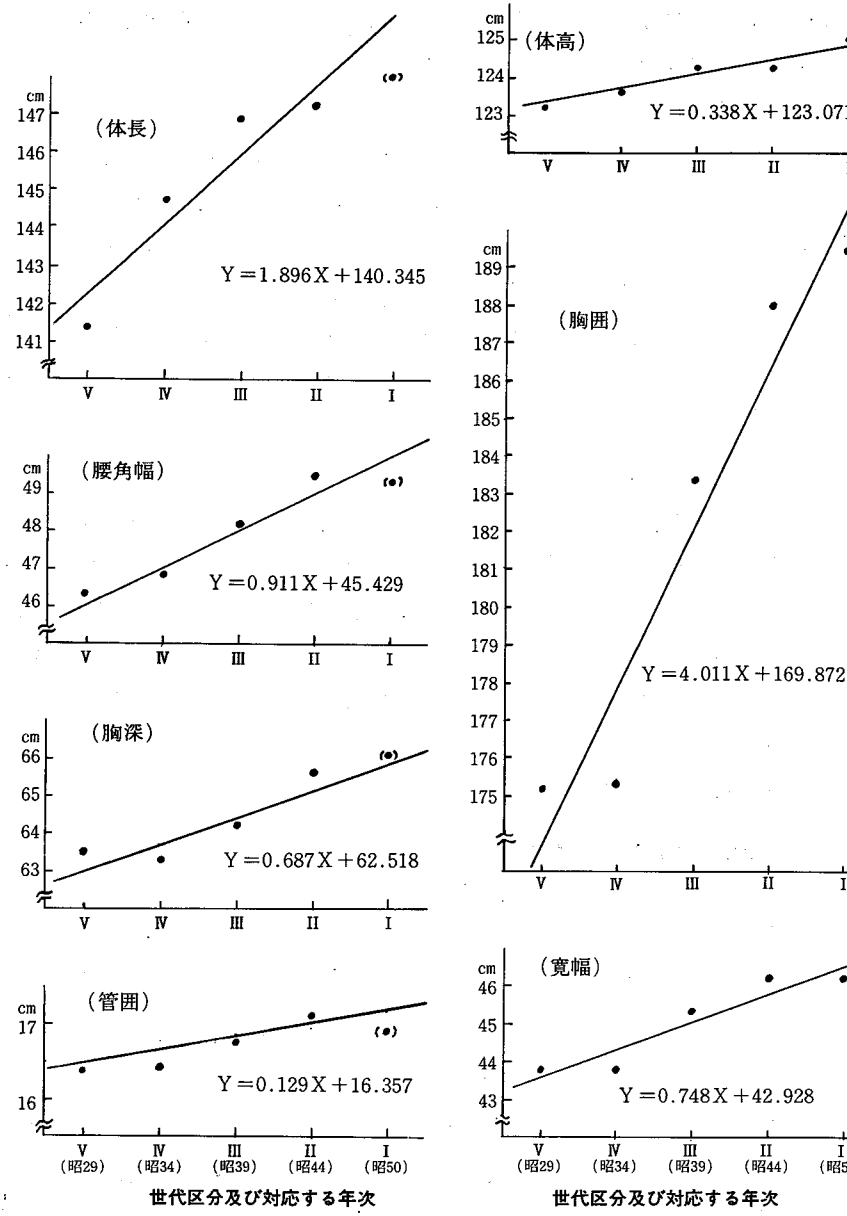
第３表によると、昭和29年から50年にかけて、各部位の数値は着実に増加傾向にあることがうかがえるが、１世代にどの程度増加しているかをみるため、世代とこれらの数値との１次回帰を求めた。その結果は第４表のとおりで、回帰係数についてはいずれも統計的に有意性が認められた。この表の見方を示すと、昭和29年から50年に至る５世代を経過するなかで、１世代を経過する毎に体高では 0.338 cm、胸囲では 4.011 cm、寛幅 0.748 cm程度の伸び（改良量）がみられる。他の部位についても同様にみていただければよいわけである。第３図は世代の経過を図示したものである。

これらの結果をみて言えることは、体高の伸びに比べて胸囲、寛幅、体長、腰角幅及び胸深の伸びが大きくなっており、このことは、先般発行された「あか牛登録協会・30年の歩み」のなかで、松川事務局長が登録牛の現況について解説しているように、あか牛の肉用牛としての改良の過程において、体高をおさえて体幅を出すという改良方針に基づき、体積、均称の配点強化ならびに後躯の改良に対する一連の内容を盛りこんだ審査標準の改訂を含めて、その実践に当たられたあか牛関係者の方々の御努力が着実に進められてきているものと多大の敬意を表するものである。

第４表　世代に対する体尺値の回帰

	回帰係数	回帰定数
体高	0.338±0.087**	123.071± 2.906
胸囲	4.011±2.191*	169.872± 7.637
寛幅	0.748±0.719**	42.928± 2.103
体長	1.896±0.427*	140.345± 6.481
腰角幅	0.911±0.879*	45.429± 2.304
胸深	0.687±0.113*	62.518±12.807
管囲	0.129±0.029**	16.357± 0.841

**：P＜0.01　　*：P＜0.05



第3図　世代に対する各体尺値の回帰

このように、あか牛の世代間隔ならびに世代に対する体尺測定値の回帰について、私なりに調査しまとめてみたものの、現在あか牛に関して身近かに係わりをもって仕事をしていないため、このような調査の分析について当を得たものであるかどうか、多少の不安が残っておるしだいである。調査の手法については、故岡本先生はじめ、多くの先生方からの御教示のもとに行ってきましたが、本稿の考察について考え方が間違っているのではないかという御指摘がありますならば、是非とも御教示いただきたく存ずるしだいである。

最後に、わが国の肉牛資源としての「あか牛」の、これまでの改良過程に対する関係者の御努力が、さらに情熱をもって引き継がれ、益々の改良・増殖が図られんことを祈念して私の拙稿のまとめとする。

謝　辞

この調査を行うにあたり、故岡本正幹先生から種々の御教示と御激励をいただきながら、先生の御生前に結果をまとめ得なかったことを自らの微力を恥じるものであるが、登録協会の松川事務局長の御協力を得て、今回このようにまとめることができた。ここに岡本先生ならびに松川事務局長に対し深甚の謝意を表するものである。

つりがね談義

長崎県　大　崎　臭　骨

第二十三話　アノ毛はおろそかにできぬ

こぼれるような秋空の下、のんびりと母牛が風に吹かれていましたが、急に背中をまるめたかと思うと、シッポを上の方に挙げて、ジャッーとすさまじい音をたてながら、オシッコをやりだしました。近くにいた子牛が、それとわかるとキョトンとした顔でつっ立っています。

私も心地よい秋風にさそわれながら、放尿をまじまじと眺めておりました。

ジャ、ジャーと堰を切ったように放出される尿の奔流は放物線をえがきながら落下して、シブキをあげています。

よく見ると、アソコの一番下のところは、スベリ台の下のようになっていて、後の方向に突き出ています。いうなれば、ヨットの三角形をした帆を、横から眺めたように後方に跳ねあげて、やや上を向いておりますネ。

この状態は、若い牛のがよくわかります。年寄り牛のは、シマリがなくてダラケておりますが……。

アレから流出する尿は、このヨットの帆のようなトンガリのところで上後方に跳ねあげられて、なるべくお尻から遠くに離れて尿が落ちるような仕組みになっています。

この跳ね上げ構造につけて加えて、ソレの最先端には、長い陰毛が生えています。縮れ毛ではありませんよ。シャンとした太くて長い剛毛なんです。

この毛も、ただの１本ではありませんネ。10数本、それも中央最先端の長い毛に、ほどよく長短よりまぜて寄りそって、一條の陰毛を形づくっておりますよ。これがまた、下にそのまま垂れているのではなくて、柳の枝のように上に跳ね曲ってから、斜め下の後方に垂れています。曲ってバネ仕掛けになっているところなど、造化の妙とでもいいましょうか、近代科学の先端技術を思わせるような、デリケートなメカニズムをもっております。

若いメス牛の放尿を横から眺めますと滝をなす尿の奔流と、落ちこぼれ組がほそぼそと陰毛をつたって落下するのと、２本の放尿路線で構成されているのがよくわかります。

放尿も終り頃になりますと、アソコがリズムをつけて収縮しはじめ、バネのきいた陰毛をつたって、尿が雨ダレのようにツツツゥーと玉の露となって転げ落ちていきます。

この最後のひとしずくが、秋の陽をうけてキラリと珠玉の輝きを放ちながら、陰毛を滑りおちる有様は、それはそれは美しいものです。

華麗なる琥珀の輝きとでも申しましょうか。

妄想をはらい、心静かに観て下さい。きっと荘厳なる「毛と玉露の美学」に驚嘆されるにちがいありません。

チリ紙の１枚でも使うことなしに、見事な毛サバキでコトを処理しているのです。

ところが不思議なことに、この陰毛は柳の枝みたいに後方に跳ねているので、いつも動かすシッポと摩擦して、擦り切れるはずですが、いつもチャンと生えていますネ。普通の体毛よりも強くできているのでしょうか。それとも、擦り切れてもすぐつぎつぎに補充されて、月１回ぐらいは生えかわっているのでしょうか。

とにもかくにも、この毛だけは絶対的な重要機能をそなえておりますが、こと人間様となりますと、オシッコなどとは殆んど無縁であり、無くったってさほど問題にしなくてもよさそうなものですが、あるべきところに有るものが無いということになりますと、話は面倒になってまいります。

統計から眺めますと、日本の女性の55人に１人は、あるべきところに有るべきものが無いツンツルテンのカワラケだそうですネ。カワラケ女性の悩みというのは、それは大変なものらしいですよ。「夜の花」というカツラを貼りつけたり、発毛剤を塗りこんだりだそうです。ある女性なんか、有名な毛生え薬をせっせと擦りこんでいたら、肝心なところには毛は生えず、指先に毛が生えてきたなんて話があります。

さて、この陰毛の長さは、男が平均4.9㎝に対し、女はそれより若干短かくて平均3.9㎝、そしてこの2.3千本の春草が、デルタ地帯にそよいでいるとモ

ノの本に書いてあります。

牛のそれは何cmなのか。子宮内膜炎とか卵巣疾患におかされたときには、その毛がどの様に変化するのか。ここらあたりは、今から分類研究していかねばならん重要な課題だと思うのです。

たとえば毛の太細、長短、硬柔、疎密、縮毛、色沢、弾力など分類整理すれば、学位論文などゆうにとれるはずだと思っています。

いうなれば、「牛の毛相学」とでもいいましょうか、これの研究開発をおこなって和牛界に貢献したいと考えております。

なんでも人の頭髪では、研究が大分進んでおりまして、髪の毛でその人の健康状態や、生活の１端までうかがえるところまできているらしいのです。

例えば、髪の毛が「太く色も濃いが弾力性に乏しい」人は、動物性蛋白質をとりすぎていて、野菜不足の人が多く、性格は短気で耐久力に欠ける傾向があるといわれています。

ある程度の弾力はあるものの、毛質の細い人は、野菜好きだが甘いものの取りすぎが目立ち、老化気味で若さが乏しい。

髪の質が細く、弾力がなくて真綿のようにフワフワした人は、典型的な糖分過多で、いつも体に異常を訴える人が多いといわれます。

考えてみれば、思いあたるフシもあり、髪の毛は体の一部だから至極当然の話ですが、意外とこのことに気付かぬ人が多いようです。

やはり我々は、資質と肉質との関連から、被毛がモグラの毛のように細く密生していることだけに目を奮われがちなので、別の次元の高いところから陰毛を研究して、健康や疾病との関連を解明してゆくべきだと思っているのです。

以上のような事をあれこれ考えたりしていたとき、畜産コンサルタントとして、和牛を10頭ほど飼育している農家を訪れることになりました。近代的な牛舎があります。子牛達はその運動場で仲好く遊んでおりましたが、その中の１頭のメス子牛の異常に気がつきました。

そこで早速、そこのご主人にたずねました。「このメス子牛は、オスとメスの双子の片割れではないですか」というと、「その通りです」との返事です。

でも１頭のオス牛は、生まれると数時間もたたずに死んでしまったので、このメス牛だけ分娩届をして、ホレこの通り子牛登記もありますと見せるのです。

なるほど、もっともな話であります。このあたりは新興の和牛生産部落ということもあって、この主人は牛の異性双子（フリーマーチン）を全然知らないのです。

メスばかりの双子は問題ないのですが、オスとメスの異性のときが困るのです。

母親の胎内では、メスの卵巣よりも精巣の発育が早く、それから出る雄性ホルモンの影響で、メス牛の卵巣機能が破壊され、メス牛は繁殖不能となってしまうのです。

この繁殖不能となる機構は、牛独特のものなんです。しかしながら、異性双生児の場合でも、きわめて稀ではありますが、妊娠することもあります。そこで妊娠したものについては、登録検査を受けることが出来るようになっております。

異性双子におけるメス牛の繁殖不能をめぐるトラブルを未然に防ぐ目的で、子牛登記の時は必ずその旨を明示することになっています。

このメス子牛は、明後日には子牛セリ市に上場するというのです。それで私は、コトの次第を登録協会に通報するし、セリ市場では異性双子であることを購買者に十分に明示したうえで、セリにかけるように依頼してやりました。こうしておきませんと、トラブルが起きてからではおそいと思ったからです。

そこのご主人が、どおして双子の片割れとわかったのですかと質問しますので、ホレご覧のとおり陰毛が異常に長いでしょう、この長いのがクセモノなんですよと教えてやりました。

人間の場合でも、頭髪は女性ホルモンの支配であり、アノ毛は男性ホルモンに左右されています。牛の場合でも、陰毛は男性ホルモンに支配されておりますが、異性双子のメスは、母牛の胎内でオスの精巣から雄性ホルモンの侵略を受けておりますので、男性ホルモンが多くなっていて、その為に陰毛が異常に長くなっているわけです。

したがって陰毛の長いメス牛を見た場合には、生殖器官に何か異常があるのではないかと注意深く観察する確かな目をもつ必要があります。

陰毛が長いといえば、かの中国は玄宗皇帝の寵姫で、絶世の美人として後世に名高い楊貴妃は、アノ毛がなんと膝頭までとどいたと「色道禁秘抄」という

本に書いてあるといいます。

白髪三千丈の中国式表現とはいえ、毛深い女性は情が濃いという一説もあるので、あながち否定はできないでしょうが、こんなこともひっくるめて毛相学は研究されてもしかるべきだと思っています。

ともあれ、アノ毛が牛にも存在していることすら知らない世間ではありますし、よしんば有ることがわかったとしても、九牛の一毛として一笑にふされるのがオチと考えられます。いや、そうじゃない、重大な意味あいを熟読玩味すべきであると、声を大にして言いたいのです。

またしても私は、黙して語らぬ禅僧のような牛に合掌しながら、毛をして語らしめる広大無辺の自然の神秘に頭を垂れて想いました。「一毛ヲ見テ全牛ヲ知ル」と。

支部だより

対馬島と対馬あか牛増頭計画

長崎県対馬支部　陶山　潤

対馬とは、漢が亡んで三国時代、その中の強国魏(ぎ)、この魏の歴史が魏志(ぎし)で、その中に倭人(わじん)伝の一書がある。

倭人とは日本人のことで、この魏志倭人伝には、三世紀頃の日本の様子が記されているが、この中に対馬の模様が次のとおり記述されている。

「居る所絶島、方四百余里ばかり、山地峻しく、深山多く、道路は禽鹿の径(けい)の如し。

千余戸有り、良田無く、海物を食して自活し、船に乗りて南北に市糴す」と。

対馬の名がはじめて歴史にあらわれたのは、魏志倭人伝であって、以後2,000年に達しようとする今日でも、対馬島民としては実感として通用するものがある。

古代には、大和朝廷と対馬、大陸へのかけ橋、遣新羅使、刀伊の入寇等、中世には、宗氏の入国、蒙古の襲来等、近世には、朝鮮の役、万松院、陶山訥庵の事績、ロシア軍艦の来寇、廃藩置県と対馬等、近代には、万関瀬戸、日露戦争と対馬、転県運動、離島振興法の成立、航路空路の変せんにより……本土との距離は一挙に短縮されることになった。

（以上は「つしま百科」を参考にさせていただいたものである。）

対馬から博多まで147㎞、釜山まではその3分の1の53㎞、南北82㎞、東西18㎞の細長い島、海岸線の長さ828㎞に及び、全島200～300ｍの山岳が連なり、ソロバン玉状を呈している。

山林は88％を占し、耕地3.3％、宅地0.7％と平地に乏しく、島しょ数109、うち有人島5となっている。

対馬島は、日本で3番目に大きく、佐渡857㎢、奄美大島819㎢についで、709㎢を有する。

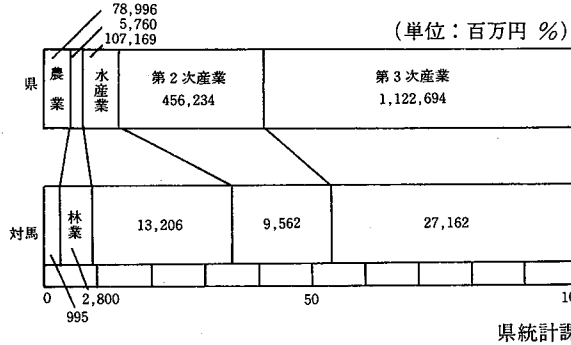
人口および世帯数

55年国勢調査で50,804人（農家人口12,700人）、世帯数15,162戸（農家戸数2,794戸）、人口は鈍化しつつあるが、年々減少傾向が続く一方、世帯数はわずかながら増加しており、核家族化の様相は現在なお続いている。

産業別純生産

52年度における総生産額は513億円で、第一次産業170億(33.2%)、第二次産業96億（18.6%）、第三次産業271億（53.0%）となり、第一次産業のうちで、水産業が77.6%、林業が16.5%、農業が5.9%となり、さらに農業粗生産額(53年）のうちでは、米が35.2%、肉用牛が12.7%と第2位を示している。
しかし町村によっては、肉用牛が首位を占めているところもある。

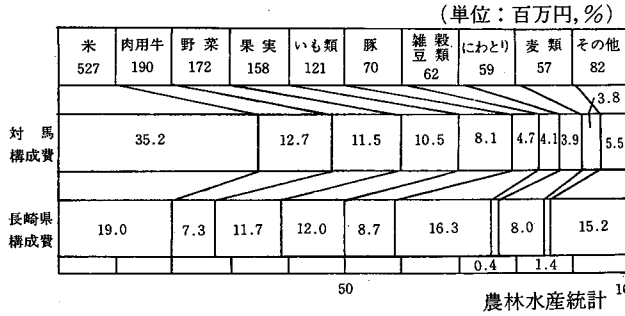
産業別純生産額(昭52)



県統計課

農業粗生産額(昭和53)　対馬総額1,498百万円

（単位：百万円,%）



農林水産統計

対馬あか牛の経緯

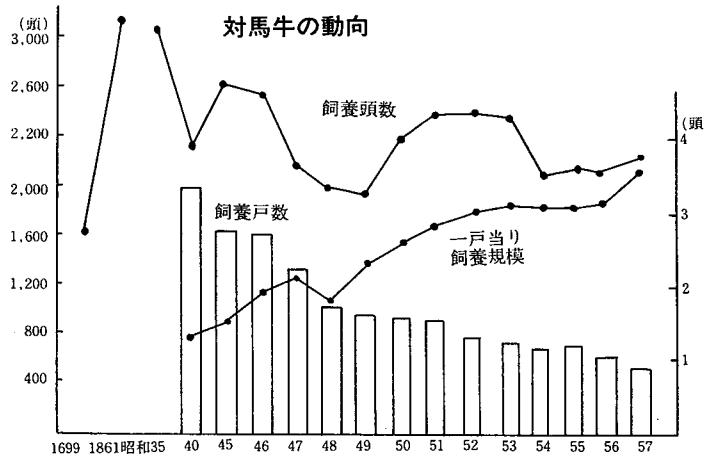
明治８～９年頃朝鮮牛の導入の記録、種雄牛は阿蘇から、又雌牛は土佐からと、当時は異毛色、目黒鼻黒の毛分けと称するものなど種々雑多な褐牛であったとされている。

昭和39年「肥後のあか牛」に転換すべしと決定されて、以後県有導入牛として100頭を単位として数年導入され、あか牛は玄海灘をこえ、「毛分け」からの転換がはかられてゆくこととなる。

40年には登録協会の深川常務、桑原事務局長の来島により対馬支部が設置され、肥後のあか牛への改良に拍車がかかってゆくのである。

改良には無縁で混沌とした対馬の毛分け牛、雑多牛は関係者のひたむきな努力によって、20年も経ずして変身定着したことは、改良史上、刮目すべき事業として特筆されることと思われる。（当時県畜産課担当、大崎熊雄氏＝現中央家畜保健衛生所勤務）

頭数については、最高とされた文久元年（1861年）には、 3,146頭が飼養され、昭和25年には 3,000頭、40年まで急激な減少を示したが、その後、45年までに2,582頭と持ちなおした。しかし49年には、さらに1,900頭台に減少した。その後は、飼養形態と畜産物需要に応えるべく、市況の好転をも幸いして53年までは増加したが、再び54年には減少し、その後は微増ではあるが増頭傾向となり、対馬あか牛の増頭計画をも加えて、現在2,140頭となっている。



対馬支庁農務課調

対馬における農業は、しいたけ、肉用牛を基幹作目とした産地化をすすめるために、昭和55年に見直された長崎県農林業生産の地域指標により、昭和60年に3,700頭の肉用牛頭数を達成することとなった。

この達成のためには、農業後継者の確保、及び離農防止のためには遊休農地の活用、減反対策及び水田裏作の利用促進、土地基盤整備による飼料確保をはかるとともに、近代施設による肉用牛の導入、保留、優良牛の生産をはかる。

肉用牛の多頭飼養の推進とともに、3～5頭の中核農家の育成と、なお1～2頭飼育についても強力に推進する。

農協における肉用牛指導事業の充実化と集団指導態勢を強化する。

あか牛の改良と増殖とを有機的に結合させた登録事業の展開。

増頭計画としては、55年の飼養農家2,794戸が60年には2,740戸とみなし、1,123頭の成雌頭数を2,140頭と、ほぼ1,000頭増頭することとしている。したがって、育成牛、その他の子牛を含めて、55年の2,050頭を3,700頭とするのが計画の概要である。

事業計画としては、畜舎等の畜産関係事業、草地開発整備事業、里山等利用促進事業、生産利用合理化促進事業(機械)、農林地域定住促進対策事業（太陽熱牧乾施設)、畜産振興補助並びに家畜導入事業等としており、本事業に対する予算総額約10億円が見込まれている。

本事業計画推進については、県対馬支庁長松尾英三氏の、対馬農業の振興はあか牛の振興以外に考えられないとの強いご熱意と行動力に負うところが極めて大きく、氏の「対馬あか牛振興句」をかかげて敬意を表する次第であります。

㋟ ぎの手は　あか牛ふやし　里づくり
㋷ まおこし　牛のよだれで　着実に
㋾ だやれる　やろうやろうの　心意気
㋐ すなろう　明るい対馬　築く牛
㋕ あちゃんの　尊い汗が　牛増やす
㋒ ッシッシ　儲けも増えた　やりようで
㋷ まじゅうが　牛倍増の　大合唱

おわりに

離島の特殊性などの理由から、本家の長崎県支部とは別に、日本あか牛登録協会長崎県対馬支部が発足して足かけ17年目の昨年末、あか牛の登録制度では最高位に属する高等登録牛が、しかも一度に4頭立派な成績で誕生した。

17年間といえば遅きに失した感もあるが、当時の情況を知る人にとっては、よくぞここまでこれたものだと感慨ひとしおである。

この高等登録誕生を契機として、今後の対馬あか牛がますます発展することを祈念するものである。

（写真は、対馬支部高等登録第1号に合格した緒方儀雄氏（上県町）の「第三あさみ号」を囲んで、登録研究会に参加した関係者。）

枝肉共励会成績集

この欄は昭和57年中に行なわれた各種枝肉共励会研究会の成績を各支部からの報告に基づいて掲載したものです。

熊本県肉畜共進会（昭和57．11．10～13　県畜産流通センター）

出品番号	出品者	父牛名	着体重	肥育日齢	枝肉重量	歩留	脂肪交雑	格付	枝肉単価	枝肉価格
			kg	日	kg	%			円	円
1	中野勇輔	初宝	635	442	392.5	64.9	1	中	1,700	641,198
2	中野勇輔	〃	713	442	462.0	66.3	3	極上	2,950	1,321,895
3	片山幸一	〃	638	445	424.0	68.3	0＋	並	1,530	629,136
4	阿蘇畜協	第六重宝	650	417	413.0	64.2	0＋	並＋	1,720	689,032
5	阿蘇畜協	〃	686	416	447.5	66.3	1	中	1,620	703,080
6	阿蘇畜協	〃	676	417	430.0	65.3	1－	中	1,700	722,160
7	今村良一	第二光泉	676	428	438.5	66.1	0＋	並	1,510	642,203
8	畜産センター	〃	722	429	460.5	64.9	0＋	並	1,500	669,900
9	松岡敏則	〃	657	428	436.5	68.6	1	中＋	1,760	744,304
10	球磨種雄牛集中管理事業所	第二球泉	643	500	410.0	64.6	1－	並＋	1,580	628,366
11	〃	〃	697	500	473.5	68.9	0＋	並	1,460	670,432
12	宮田正利	〃	729	500	482.0	66.9	0＋	並	1,570	730,975
13	上野勝	光武	720	442	451.0	64.2	1＋	中＋	2,030	887,920
14	宮原利満	〃	607	523	385.0	64.9	0	並	1,610	601,174
15	中原喜則	〃	713	493	473.0	67.9	3－	極上	2,610	1,197,468
16	長野誠	〃	670	524	436.5	66.5	0＋	並	1,610	681,674
17	土田重行	〃	726	524	479.0	66.6	2－	上	2,090	971,014
18	岡村富雄	〃	679	522	437.5	66.6	2＋	上＋	2,200	933,460
19	松尾二三夫	第三重川	740	442	494.0	68.1	3	上＋	2,150	1,030,065

			kg	日	kg	%			円	円
20	大渕伸夫	第三重川	582	442	378.5	669.	0+	並	1,660	609,386
21	月足泰幸	〃	727	443	477.5	67.0	0+	並	1,750	810,425
22	阿蘇畜協	第四栄豊	674	479	438.0	67.0	0+	並	1,600	679,680
23	〃	〃	704	479	466.5	67.5	2+	上+	2,050	927,625
24	〃	〃	906	479	589.0	66.6	1+	中+	1,560	891,540
25	西田三貞	第十一蘇殖	631	440	386.0	63.4	0	並	1,540	576,576
26	野口俊信	光武	613	337	376.0	63.5	1+	並+	2,010	733,047
27	安武幹記	蘇月	672	352	418.5	65.3	0+	並	1,620	657,558
28	藤原勉	第三重川	734	432	488.5	68.3	1−	並	1,580	748,604
29	早野一昭	〃	649	426	406.5	64.4	1+	中+	2,000	788,600
30	帆保新次	〃	704	354	450.5	65.7	1−	中	1,650	720,885
31	工藤幸丸	第八重川	671	356	437.0	66.6	2−	中+	2,210	936,598
32	宮田正利	第十一蘇殖	686	501	444.0	65.4	0+	並	1,500	645,900
33	後藤春雄	第三重川	724	428	463.0	65.4	0+	並	1,520	682,632
34	大久保隆	蘇月	689	423	440.5	65.2	0+	並	1,710	730,512
35	宮田正利	第六蘇殖	711	500	449.5	64.4	1−	中	1,560	680,160
36	福田幸明	第三重川	677	492	451.5	67.9	1+	中+	1,800	788,220
37	坂口敏和	初宝	664	472	418.5	64.9	1−	中	1,810	734,679
38	林田直行	初宝	734	493	464.0	64.6	0+	並	1,590	715,500
39	大渕慶立	蘇月	715	433	463.0	66.3	0+	並	1,600	718,560
40	村上英明	光花	624	479	385.0	62.8	0	並	1,550	578,770
41	下益城畜協	弦重	742	524	489.0	66.8	1−	中	1,670	792,081
42	大渕伸夫	第十重川	746	445	427.0	67.2	1−	並	1,590	750,957
43	工藤幸丸	光花	714	418	473.5	67.9	1	中	1,830	840,336
44	野口勉	第三重川	713	493	456.0	65.2	1	中	1,820	804,986
45	中満達也	光武	693	524	457.5	67.1	1+	中+	1,900	843,030
46	西島健二	初宝	710	536	466.5	67.2	0+	並	1,510	684,375

47	松原末広	第三重川	629 kg	536 日	404.5 kg	65.9 %	1 −	並+	1,620 円	635,526 円
48	深浦憲吉	第二球泉	769	501	489.5	65.3	2 −	中+	1,800	854,640
49	大久保　隆	蘇幸	781	522	513.5	67.7	1	中	1,550	771,900
50	矢部畜協	〃	647	523	394.0	62.1	1 +	中	1,720	657,212
51	坂本直士	重波	785	601	519.0	68.2	4	極上	2,200	1,107,480
52	磧本利道	重花	699	561	450.5	66.7	2 +	上+	2,100	917,490

長崎県肉牛枝肉共励会（昭和57．12．3　全農福岡事業所）

出品番号	出品者	産地	父牛名	導入価格	肥育日令	着体重	枝肉重量	歩留	脂肪交雑	格付
1	蛙石良人	熊本	光光	310,000 円	513 日	725 kg	451.0 kg	62.2 %	1 −	中−
2	永野春和	〃	〃	294,000	513	670	421.9	62.9	1	中
3	松尾虎男	〃	玉波	313,000	501	705	442.3	62.7	1	中
4	大久保義輔	〃	第三重川	345,000	438	675	426.8	63.2	1 −	並
5	田中久次	〃	重波	329,000	438	640	388.9	60.7	1 −	中−
6	岡野作一	長崎	福宝	301,500	567	715	450.0	62.9	2 −	中
7	管　優	〃	光	291,450	506	680	405.4	59.6	2	上
8	管広太	対馬	竜五	266,325	509	610	379.2	62.1	1	中
9	本多　進	長崎	長崎福重	241,200	506	580	351.1	60.5	1 −	中−
10	植松　桂	対馬	竜五	290,445	509	600	356.9	59.4	1 −	並
11	川田戴男	長崎	重優	230,000	383	655	405.4	61.8	0 +	並
12	柴田博文	〃	長崎福重	200,000	386	680	417.1	61.3	0	並
13	林田英康	熊本	第四栄	313,000	317	685	411.2	60.0	1	中
14	柴田弘海	対馬	不明	220,000	385	630	381.2	60.5	1 −	並
15	林田武四郎	熊本	第六重宝	355,000	—	600	376.3	62.7	0	並
16	草野竹光	〃	重波	301,000	500	610	361.8	59.3	1 −	並
17	末永謙次	長崎	長崎福重	252,255	506	620	366.6	59.1	0 +	並

福岡県肉畜共進会（昭和57．10．12～15　九州協同食肉株式会社）

出品番号	出品者氏名	肥育期間	着体重	枝肉重量	枝肉歩留	格付
11	梶原修二	380日	595kg	378.3kg	63.5%	中
12	藤野久	507	670	439.4	65.5	並
13	平川秋吉	394	650	413.2	63.5	並
14	平川亘	394	650	410.3	63.1	中－
15	金子富幸	394	620	381.2	61.4	中－
16	大木実	394	590	378.3	64.1	並
17	久富賢成	394	660	425.8	64.5	中
18	森実	394	635	389.9	61.4	中
19	池本広瀬	392	600	385.0	64.1	中
20	池本儀孝	392	645	404.4	62.6	中
21	皆川伸幸	389	665	415.1	62.4	並
22	原田勉	389	580	366.6	63.2	上
23	久保貞之	391	650	407.4	62.6	並
24	白浜義信	464	635	409.3	64.4	中
25	田中篤美	451	670	413.0	61.6	中

静岡県肉用牛枝肉研究共励会（昭和57．11．11～15　経済連中部食肉事業所）

出品番号	出品者氏名	産地	父牛名	着体重	枝肉重量	歩留	脂肪交雑	格付	枝肉単価	枝肉価格
19	藤原清	熊本	光武	560kg	362.5kg	64.7%	1	中	右1,700円 左1,700	616,250円
20	関義一郎	〃	第一重川	527	325.5	61.7	1	中	1,660 1,720	550,110
21	笠原安夫	〃	菊竜	536	333.0	62.1	1－	中	1,700 1,620	552,740
22	鈴木甲子男	〃	松房	551	347.0	62.9	2－	上	1,760 1,720	603,800
23	関平義治	〃	第二光泉	600	383.0	63.8	1－	中	1,600 1,580	608,980
24	西岡和弘	〃	第四栄	512	320.0	62.5	1－	中	1,620 1,620	518,400

25	浅木克己	熊本	蘇月	585kg	372.0kg	63.5%	2−	上	右1,850円 左1,820	682,680円
26	鈴木　仁	〃	重富	549	349.0	63.5	1	上	1,720 1,720	600,280
27	桜井文雄	〃	〃	520	332.0	63.8	2	上	1,690 1,680	559,430
28	半田康芳	〃	光花	562	363.0	64.5	2	上	2,300 1,960	783,700
29	岡平義治	〃	初宝	555	344.0	61.9	1	中	1,740 1,740	598,560
30	山本金助	〃	第十 蘇殖	617	389.0	63.0	2	上	2,160 2,210	849,965

群馬県板倉町あか牛枝肉共進会（昭和57．10．12　東京芝浦市場）

出品番号	出品者氏名	産地	父牛名	導入価格	枝肉重量	脂肪交雑	格付	枝肉単価	枝肉価格
1	小島忠蔵	熊本	重宝	319,400円	382kg	1	並	1,701円	649,782円
2	小林義雄	群馬	光武	—	493	3−	極上	2,450	1,207,850
3	小林はつ	熊本	重波	308,700	306	1−	並	1,550	474,300
4	板橋保夫	群馬	光武	—	327	1+	中	1,750	572,250
5	中島喜重	熊本	〃	331,800	399	2−	中	2,101	838,299
6	高橋正雄	群馬	玉波	—	385	1.5	中	1,900	731,500
7	町田恵弘	熊本	重波	301,800	372	1−	並	1,660	617,520
8	小谷野長平	〃	初宝	294,100	360	1.5	中	1,870	673,200
9	田村謙一	群馬	第三 蘇殖	—	389	2−	中	2,000	778,000
10	亀井伝蔵	熊本	初宝	317,300	403	1−	並	1,650	664,950
11	北村たか	〃	第一 重川	317,300	357	1−	並	1,600	571,200
12	北村勇人	〃	重波	313,200	369	2−	中	1,900	701,100
13	中島英雄	〃	光武	325,600	375	1−	並	1,600	600,000
14	増田好二	〃	重金	341,600	424	2	上	2,100	890,400
15	桜井保高	〃	重栄	321,600	429	2−	中	2,100	900,900
16	桜井影俊	〃	長崎 福重	321,500	357	1	中	1,750	624,750
17	桜井　清	〃	第五 重川	280,500	372	1−	並	1,520	565,440

18	飯島一雄	熊本	光武	308,000円	391kg	0.5	並	1,551円	606,441円
19	横塚堯男	〃	〃	315,200	370	1	中	1,650	610,500
20	小林茂満	〃	第二重宝	321,400	365	1.5	中	1,804	658,460

秋田県畜連枝肉共励会（昭和57．2．15～17　東京食肉市場）

出品番号	出品者名	父牛名	着体重	枝肉重量	歩留	格付	枝肉単価
15	佐藤千代子	丸波	699kg	451kg	64.5%	中	1,815円
16	田口ケコ	春玉	736	452	61.4	特選	2,350
17	山田エコ	玉波	690	439	63.6	中	1,700
18	小林イネ	玉波	749	454	60.6	中	1,951
19	成田重広	春玉	830	524	63.1	中	1,650
20	斉藤キミ	〃	700	432	61.7	中	1,921
21	佐藤二郎	玉波	720	450	62.5	上	2,000
22	伊藤斉	〃	650	403	62.0	中	1,936
23	伊藤金蔵	〃	581	355	61.1	上	2,080
24	畠山一郎	春玉	670	411	61.3	中	1,900
25	畠山幸雄	〃	675	429	63.6	中	1,822

産肉能力検定成績速報

この欄は、褐毛和種産肉能力間接検定法に基づいて実施された検定成績で、本会の産肉能力検定委員会で公認されたものを「速報」として公表するものである。

第十重川(1級569) ┬ 第二重川(高53) ― 重　川(1級191)　検定場所　熊本県畜産試験場
　　└ そ し げ(高1287) ― 重　宝(高40)　検定期間　昭和56.9.16～57.8.11

調査牛番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平　均
開始時日齢	371日	355	352	350	343	303	282	282	282	280	320±35.7
終了時日齢	699日	683	680	678	671	631	610	610	610	608	648±37.2
開始時体重	333.3kg	317.7	350.7	327.3	321.3	278.3	308.7	296.3	280	314	312.8±22.9
終了時体重	622.3kg	618.6	667.3	666.3	651.3	546.0	659.6	601.0	606.3	632.0	627.0±37.2
1日平均増体量	0.89	0.91	0.96	1.03	1.00	0.81	1.07	0.93	0.99	0.97	0.96±0.07
と殺前体重	597kg	596	634	623	619	518	631	574	581	605	597.8±34.6
枝肉重量	397.0kg	390.0	437.5	412.0	413.0	346.5	412.0	371.5	381.0	391.5	395.2±25.5
枝肉歩留	66.5%	65.4	69.0	66.1	66.7	66.9	65.3	64.7	65.6	64.7	66.1± 1.3
脂肪交雑	2+	2−	1.5+	1−	1.5+	1.5+	2	3.5	2.5	2	2.0± 0.7
ロース芯面積	53.1㎠	51.9	58.1	58.2	51.5	44.4	56.8	52.9	44.6	50.0	52.2± 4.9
枝肉等級	上	上	上	中	中	中	上	上	上	上	上
産肉能力得点	86.5	86.0	89.5	86.0	87.0	80.5	91.0	89.0	88.0	88.5	87.2

第二光泉(1級572) ┬ 球　泉(1級463) ― 球　光(高26)　検定場所　熊本県畜産試験場
　　└ ひとり(高 977) ― 蘇　月(高35)　検定期間　昭和56.10.7～57.9.1

調査牛番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平　均
開始時日齢	331日	331		298	293	288	282		271	271	295.6±23.0
終了時日齢	659日	659		626	621	616	610		599	599	623.6±23.8
開始時体重	354.3kg	309.3		332.3	297.3	279.3	286		259	276	299.2±31.5
終了時体重	752.0kg	693.0		678.0	657.0	663.7	661.7		555.3	618.7	659.9±56.7
1日平均増体量	1.20	1.17		1.05	1.09	1.17	1.14		0.90	1.04	1.10±0.09
と殺前体重	711kg	656		644	617	632	625		534	580	624.9±52.2
枝肉重量	473kg	427		416	408	418.5	409		342.5	386	410±36.8
枝肉歩留	66.5%	65.1		64.6	66.1	66.2	65.4		64.1	66.6	65.7± 1.2
脂肪交雑	2.5	2		1.5	2.5	4	2−		2.5	3.0	2.5± 0.8
ロース芯面積	53.2㎠	54.3		58.7	46.0	55.4	66.1		44.5	55.9	54.3± 6.8
枝肉等級	上	上		中	上	極上	上		上	上+	上
産肉能力得点	93.0	91.5		89.0	92.0	97.5	91.0		86.5	92.5	91.8

第五重宝（1級555）
- 重　宝(高40) ― 重　玉(高11)
- しげふく(高909) ― 重　玉(高11)

検定場所　秋田県畜産試験場
検定期間　昭和56.9.4～57.7.30

調査牛番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平　均
開始時日齢	309 日	283	282	273	259	245	237	232			265.0±26.5
終了時日齢	638 日	612	611	602	588	574	566	561			594.0±26.5
開始時体重	310.0 kg	304.3	214.7	270.3	242.7	235.3	209.0	271.0			257.2±38.1
終了時体重	580.0 kg	601.3	483.0	562.3	547.3		510.7	603.7			555.5±45.5
1日平均増体量	0.82	0.97	0.82	0.89	0.93		0.92	1.01			0.91±0.07
と殺前体重	568 kg	587	469	538	534		496	585			539.6±44.8
枝肉重量	368.5 kg	379.5	297.0	345.0	333.5		318.0	378.5			345.7±31.7
枝肉歩留	64.9 %	64.7	63.3	64.1	62.5		64.1	64.7			64.0±0.87
脂肪交雑	3.5	2.5	2	1	1.5		1	3.5			2.1± 1.1
ロース芯面積	48.5 cm²	58.5	38.0	49.0	49.0		40.5	52.0			47.9± 6.9
枝肉等級	上	上	中	中	中		中	極上			中+～上-
産肉能力得点	87.0	90.5	80.5	81.5	83.0		81.5	94.0			85.4

会　報

○ 臨 時 総 会

昭和57年９月28日午前11時より、熊本市草葉町畜産会館において臨時総会を開催。役員の補欠選挙について審議した結果、理事に新任２名が選出された。

理　事

（新任）　山部龍三、成田広造

なお、理事互選の結果、空席となっていた常務理事に次の2名が選任された。

常務理事　城　光宣、山部龍三

○ 各種合同委員会

昭和57年９月９日、熊本県畜産試験場において、改良増殖専門委員、中央審査委員、産肉能力検定委員による合同委員会を開催した。当日の出席者および協議事項は次の通りである。

（出席者）

委員＝黒肥地一郎、熊崎一雄、古賀　脩、大川忠男、板井康明、佐々木鉄太郎、小林俊夫、寺本一人、河津幸喜、秦　　定、城　光宣、工藤益雄、中島宣好、吉村征彌、吉永民雄

本会＝松川昭義、児玉一宏、川崎広通　熊本県支部＝上村直己

（協議事項）

(1)　受精卵移植による生産牛の登録問題について

(2)　あか牛の産肉性に関する改良目標について

(3)　産肉能力間接検定成績と今後の事業推進について

(4)　審査標準上の標準体型（目標とする大きさ）の改正について

(5) 種雄牛発育曲線の修正について

(6) 子牛判定基準の改正について

○ 実務事務担当者会議

日ごろあか牛の登録事業に携わっている全国の実務事務担当者会議を、昨年12月11日、熊本市草葉町畜産会館において開催した。

当日は年末の多忙な時期にもかかわらず、北海道、宮城、福岡、対馬、熊本の各道県支部から約30名の出席があり、登録事業の推進や事務処理の方法等について協議した。

なお、本部事務局より提案し了承された事項は次のとおりである。

(1) 血液型による親子判定任意調査の実施

(2) 改良組合活動状況発表会の開催（昭和58年３月頃）

(3) 異毛色などによる登記無資格牛であって血統の明らかなものに対しては、協会で統一した血統証明書の発行に切り替える。

○ 受精卵の移植による生産牛の登録取扱要項

本会では受精卵の移植技術の普及に対応して、このほど生産牛の登録取扱要項を下記の通り定め、実施することにした。

（目的）

第１　受精卵の移植による生産牛（以下「生産牛」という）を登録または子牛登記するときは、登録規程に定めるもののほかこの要項により取扱う。

（対象）

第２　この要項の対象とするものは、次のとおりとする。

1．国内において採取した受精卵を移植した牛から生産されたもの

（申込み条件）

第３　生産牛の登録または子牛登記の申込みは、次の条件を満たしたものでなければならない。

1．受精卵を採取する牛（以下「供卵牛」という）は、本会で登録または子牛登記されたもの

2．受精卵を移植される牛（以下「受卵牛」という）は、登録証明書、鼻紋等によってその個体が確認されたもの

（種付けの制限）

第4　供卵牛は、同一発情期に2頭以上の種雄牛による種付けを行なってはならない。

受卵牛は、受精卵の移植時と同一の発情期及びその前後の発情期に種付けをしてはならない。

（受精卵の採取報告）

第5　受精卵を採取した者は、採取後直ちに、第1号様式の受精卵採取報告書を3部（1卵につき）作成し、その1部は、種付証明書の写しを添付して本会に提出するものとする。また各1部は供卵牛所有者及び受卵牛所有者が保管する。

（受精卵の移植報告）

第6　受精卵を移植した者は、その都度、第2号様式の受精卵移植報告書を4部作成し、その1部を移植後直ちに本会に提出するものとする。また各1部は供卵牛所有者、受卵牛所有者及び受精卵移植者が保管する。

（受卵牛の移動）

第7　受卵牛を移動するときは、譲渡人は受精卵移植報告書を譲受人に渡さなければならない。

（子牛生産届）

第8　受卵牛が出産したときは、その所有者は登録規程に定める子牛生産届に受精卵移植報告書を添えて、本会に届け出なければならない。

（生産牛及び父母牛の判定）

第9　生産牛は、出生したとき、速かに血液型により父母牛の判定を受けなければならない。

（名号）

第10　生産牛を子牛登記または登録するときは、名号の末尾に「E・T」を付けるものとする。

（書類の経由）

第11　この要項により本会に提出する書類は、支部を経由するものとする。

（附則）

第12　この要項は、昭和57年10月１日から実施する。

（様式省略）

○　高等登録審査成績

本誌「第48号」で公表以後、高等登録審査に合格したものは次の通りである。

（雄の部）

高等登録番号	名号	得点	血統 父	血統 母	所有者
高 64	重富	87.0	重玉（高11）	第二さかえ（1級 3547）	熊本県阿蘇郡一の宮町 阿蘇畜産農協

（雌の部）

高等登録番号	名号	得点	血統 父	血統 母	所有者
高1412	ひさなり	82.6	蘇明（高30）	なりひさ（予熊41131）	熊本県上益城郡御船町 清村　八郎
高1413	とみ	83.3	草南（1級220）	とみふく（1級15978）	〃　阿蘇郡白水村 後藤　昭雄
高1414	はな	81.2	草光（1級389）	とみ（1級12335）	〃　〃　蘇陽町 佐藤　義晴
高1415	しげかね	83.5	福花（高31）	たかゆき（本5095）	〃　〃　白水村 中川　澄男
高1416	りゅうこ	80.7	優博（高51）	はつ（1級14900）	〃　〃　西原村 山口　豊記
高1417	こうづき	80.7	重月（1級299）	しげ（本3819）	〃　菊池郡大津町 中野　鉄男
高1418	ふみ	82.2	重福（高47）	みつ（1級18863）	〃　阿蘇郡蘇陽町 山辺　常勝
高1419	第四さかえ	84.0	重福（高47）	第二さかえ（高 161）	〃　〃　白水村 峰　つぎえ
高1420	ふゆる	81.5	福花（高31）	とよみ（1級 3142）	〃　〃　高森町 今村　助男
高1421	しろふく	81.6	白波（1級498）	こみ（1級23369）	〃　〃　白水村 島田　和久
高1422	とよひめ	87.0	原美（高46）	とよひめ（高 609）	〃　〃　〃 小林　盛雄
高1423	えい	81.5	草南（1級220）	はる（1級14614）	〃　〃　高森町 本田雄二郎
高1424	さつみ	82.7	蘇竜（高55）	はるさかえ（1級36654）	〃　〃　長陽村 熊本種畜牧場阿蘇支場

高等登録番号	名号	得点	血統 父	血統 母	所有者
高1425	ふじひめ	82.1	蘇月(高35)	めぐみ(1級11909)	熊本県球磨郡錦町 川原 計
高1426	さつき	82.1	蘇月(高35)	あやめ(1級20346)	〃 〃 上村 尾方 福美
高1427	ゆり	81.3	光力(高27)	ふくひめ(1級 8303)	〃 〃 〃 皆越 弘記
高1428	みつひめ	80.4	光力(高27)	つぎひめ(2級熊19269)	〃 〃 多良木町 中村順三郎
高1429	みつひめ	82.5	蘇玉(1級347)	ひろこ(1級29640)	〃 〃 須恵村 恒松 和典
高1430	さつき	81.9	蘇月(高35)	なつみ(1級29461)	〃 〃 相良村 桑原 五一
高1431	みつこ	80.9	球光(高26)	ゆうせい三(高 29)	〃 〃 〃 岡村 隆行
高1432	よつめ	85.1	蘇殖(高56)	きくとみ(1級19417)	〃 〃 山江村 城子 義治
高1433	第四はるひめ	80.3	蘇月(高35)	はるひめ(高 333)	〃 〃 〃 迫田 義行
高1434	はつめ	82.3	光力(高27)	ふため(1級27228)	〃 〃 球磨村 川内 勝身
高1435	たかこ	81.0	国盛(高33)	たかえ(高1026)	〃 鹿本郡鹿本町 国本 賢一
高1436	みつよ	83.2	大優(1級26)	よしこ(1級 3366)	〃 下益城郡砥用町 井上 明
高1437	しらひかり	80.3	白岩(高52)	きくひかり(1級12886)	〃 〃 〃 下田 克敏
高1438	ちぐさ	80.2	弦重(高54)	だいふく(1級26356)	〃 〃 小川町 藤坂 光秋
高1439	はるあき	83.1	白岩(高52)	はる(1級17823)	〃 〃 松橋町 佐々木 力
高1440	第三さつき	82.2	重宝(高40)	はつぎく(高 316)	〃 阿蘇郡阿蘇町 下城 正士
高1441	しげふじ	83.4	第二重川(高53)	はつあやめ(1級15410)	〃 〃 〃 井芹 昭次
高1442	あきさかえ	82.4	重宝(高40)	やえひめ(1級19230)	〃 〃 一の宮町 吉岡 章
高1443	たまなみ	83.6	重玉(高11)	としはま(本8810)	〃 〃 阿蘇町 下村 敏明
高1444	みきひめ	83.7	竜明(高39)	みき(1級14163)	〃 〃 〃 西島 喜一
高1445	第六あやめ	82.0	菊雄(1級245)	第三あやめ(高 490)	〃 〃 〃 坂口 静義
高1446	はるふく	84.2	蘇丸(本1000)	しらふじ(1級 4310)	〃 〃 一の宮町 梅野 光義
高1447	ちよひめ	84.1	重宝(高40)	きくはな(1級35950)	〃 〃 波野村 古沢 康男
高1448	さくら	82.0	第二重川(高53)	さつき(1級22988)	〃 〃 阿蘇町 田上 秀喜
高1449	第三さつき	81.7	第二重川(高53)	みやさつき(1級15028)	〃 〃 〃 下村 政喜
高1450	まるひかり	85.0	第二重川(高53)	まるいち(1級25296)	〃 〃 〃 松野 久一

高等登録番号	名号	得点	血統 父	血統 母	所有者
高1451	しげこ	80.9	浜丸（本1041）	さかえ（2級熊4549）	熊本県阿蘇郡阿蘇町 本田 小一
高1452	第二ひかり	80.3	重玉（高11）	ひかり（1級10205）	〃 〃 〃 〃
高1453	とみひかり	85.4	重玉（高11）	とちにしき（1級 1174）	〃 〃 波野村 楢木野惟幸
高1454	第一えいこう	80.9	蘇玉（1級347）	えいこう（高 960）	〃 菊池郡大津町 大塚 洋
高1455	はじめ	80.7	蘇玉（1級347）	さつき（1級 7768）	〃 〃 菊陽町 古荘タミ子
高1456	みどり	81.1	金時（高32）	よしみ（2級熊5773）	〃 菊池市木護 内田 克彦
高1457	みつふじ	80.2	光優（高22）	ふじ（1級17731）	〃 菊池郡旭志村 稗田 鉄蔵
高1458	第八とみふく	80.3	重玉（高11）	とみふく（高 450）	〃 〃 〃 大塚 祐次
高1459	きくひめ	81.2	菊久（1級306）	きさき（1級30775）	〃 〃 七城町 渡辺 義弘
高1460	ひろみ	82.7	原美（高46）	ゆうえい（2級熊16179）	〃 〃 合志町 井本 正己
高1461	はつ	81.1	優博（高51）	はつゆき（1級27906）	〃 菊池市稗方 奥村 博文
高1462	さかえ	80.6	重光（高59）	さつき（1級21298）	〃 菊池郡七城町 神尾 清立
高1463	さつき一	82.4	中堀（高38）	第二さつき（高1032）	〃 上益城郡矢部町 上田 常雄
高1464	しげる四	84.3	重梅（1級301）	しげる三（高 673）	大分県日田郡上津江村 林 幸綱
高1465	あき	82.6	竜浦（高19）	さかえ（2級熊8995）	熊本県下益城郡中央町 明石 導春
高1466	はたさかえ	82.5	蘇旗（1級458）	はたえ（1級26330）	〃 〃 砥用町 東 昭敏
高1467	たつあき	80.8	大和（1級158）	あき（1級19531）	〃 〃 〃 三浦 望
高1468	ふみえ	83.1	菊玉（高23）	さかゆる（1級 4621）	〃 芦北郡芦北町 坂本 協市
高1469	ひめ	83.2	重吉（高25）	ひめゆり（1級 5171）	〃 人吉市下原田町 向岩 惣一
高1470	あやめ	82.4	蘇殖（高56）	たか（1級29166）	〃 〃 〃 豊永 義一
高1471	たけひめ	82.1	重房（1級398）	はつひかり（1級 8301）	〃 〃 〃 西門 五男
高1472	みつ	80.1	球光（高26）	うめこ（高 826）	〃 球磨郡錦町 尾方 賢児
高1473	みさお	81.6	蘇殖（高56）	ゆうはる（1級11168）	〃 〃 〃 赤池 義二
高1474	つきひめ	83.4	蘇月（高35）	ひめゆり（2級熊13532）	〃 〃 〃 新堀徳人志
高1475	はつひめ	82.6	蘇月（高35）	わかひめ（1級29184）	〃 〃 上村 瀬戸口 榊
高1476	ゆかり	82.0	光力（高27）	第九みつえ（2級熊5883）	〃 〃 岡原村 那須 幹男

高等登録番号	名号	得点	血統 父	血統 母	所有者
高1477	しんふく	82.2	蘇月 (高35)	はつひかり (2級熊24494)	熊本県球磨郡多良木町 尾方 年次
高1478	ふくみ	85.1	蘇月 (高35)	めぐみ (1級20249)	〃 〃 湯前町 清藤 次昭
高1479	ふくひめ	82.2	永球 (1級417)	たまひめ (高1001)	〃 〃 〃 荒川 正光
高1480	ふくみ	85.2	蘇月 (高35)	さかえ (1級11243)	〃 〃 〃 馴松 高
高1481	はるみ	83.9	蘇月 (高35)	みつひめ (高 958)	〃 〃 〃 白川 一男
高1482	まんりょう	81.9	竜浦 (高19)	たか (1級21195)	〃 〃 〃 福田 広人
高1483	はつふく	82.2	竜浦 (高19)	第二ともえ (高 513)	〃 〃 須恵村 恒松 好右
高1484	ひめ	82.8	蘇清 (1級391)	てつこ (1級33149)	〃 〃 球磨村 馬場 栄
高1485	ふくよし	84.7	重福 (高47)	にしき (1級33641)	〃 阿蘇郡白水村 荒牧 孝憲
高1486	ゆきはな	82.0	重福 (高47)	さくら (本8310)	〃 〃 高森町 阿南 久幸
高1487	ふくまる	82.1	重福 (高47)	いみる (本7578)	〃 〃 長陽村 田中 武敏
高1488	みゆき	84.3	草光 (1級389)	みまる (1級14524)	〃 〃 高森町 古沢 信幸
高1489	いみる	81.3	重月 (1級299)	なみしげ (1級 313)	〃 〃 〃 勝木 友盛
高1490	ほまれ一	81.7	重福 (高47)	第一ほまれ (1級29010)	〃 〃 〃 工藤 月子
高1491	みねしげ	83.4	重福 (高47)	みね (本5108)	〃 〃 〃 本田貴一郎
高1492	とみ	80.8	草南 (1級220)	かわとみ (予熊43523)	〃 〃 白水村 荒木 一
高1493	ふみよし	83.9	福花 (高31)	ふみやま (予熊43617)	〃 〃 高森町 古沢 二吉
高1494	としみ	82.2	重福 (高47)	いずみ (1級25754)	〃 〃 長陽村 藤原 豊
高1495	なつめ	82.2	重福 (高47)	はつはる (1級24567)	〃 〃 久木野村 浅尾 行雄
高1496	はつまる	80.6	第二竜明 (高49)	第四きくづき (1級25911)	〃 〃 蘇陽町 芹口 錦雄
高1497	よしなか	80.3	重月 (1級299)	きんくわ (予熊38492)	〃 〃 高森町 野尻 忠
高1498	りゅうほう	83.3	第二竜明 (高49)	ほうらい (高 203)	〃 〃 〃 白石 民生
高1499	みつこ	85.3	菊玉 (高23)	みつしろ (1級 2902)	〃 〃 白水村 渡辺 豊次
高1500	しげみち	80.0	福花 (高31)	しげあき (本5119)	〃 〃 高森町 草村 征憲
高1501	くにはな	81.1	国盛 (高33)	かみかぜ (1級20858)	〃 菊池市四丁分 石原 友義
高1502	たかね	81.8	重玉 (高11)	さざなみ (1級28011)	〃 〃 鍋倉 有田 輝男

高等登録番号	名号	得点	血統 父	血統 母	所有者
高1503	ふくまる	84.1	金時 (高32)	ふくまる (予熊31539)	熊本県菊池市四丁分 元村 金蔵
高1504	さかえ	82.2	重光 (高59)	こうえい (1級19575)	〃 菊池郡合志町 坂本 耕三
高1505	はつよ	82.6	光永 (1級415)	はつこ (1級18024)	〃 〃 菊陽町 松永 実
高1506	めぐみ	80.5	蘇明 (高30)	はなみ (1級 7988)	〃 上益城郡清和村 大庫 嗣男
高1507	ひさこ	84.1	第四栄 (1 383)	なつえ (1級16705)	〃 〃 矢部町 中村 健次
高1508	みどり	82.4	草錦 (1級349)	さつき (2級熊8444)	〃 〃 〃 藤本 親之
高1509	はつえ	80.3	第四栄 (1級383)	みかえ (1級36221)	〃 〃 〃 木戸 幸男
高1510	めいこ	82.6	蘇明 (高30)	第三あきら (予熊44808)	〃 〃 〃 高橋 円丸
高1511	第二はつにしき	82.6	重玉 (高11)	ふみ (2級熊20115)	〃 阿蘇郡一の宮町 佐藤 初男
高1512	第六あきまる	80.3	重宝 (高40)	あきまる (高 196)	〃 〃 阿蘇町 久本 昭寛
高1513	まるさかえ	81.8	重宝 (高40)	第六はつひ (高 847)	〃 〃 〃 島野 洋資
高1514	第三しらやま	86.6	竜明 (高39)	たけまる (2級熊23061)	〃 〃 〃 山部 武
高1515	たつふく	80.8	竜明 (高39)	ふくえい (1級20477)	〃 〃 〃 中川 順雄
高1516	たけひめ	81.5	菊雄 (1級245)	第二ふくたけ (1級15457)	〃 〃 波野村 森 新一
高1517	ふくこ	80.7	第二豊旗 (高43)	こうふく (1級 3243)	〃 〃 阿蘇町 上島 栄松
高1518	第三ふくみや	82.6	光重 (1級333)	ふくみや (1級12988)	〃 〃 産山村 井 広明
高1519	ひめさかえ二	81.7	中堀 (高38)	ひめさかえ (1級10143)	〃 〃 阿蘇町 日田 形雄
高1520	まさ三	80.9	重玉 (高11)	まさ (1級16383)	〃 〃 一の宮町 塚本 盛明
高1521	ますかわ	83.6	第二重川 (高53)	ますえい (本2739)	〃 〃 産山村 井 広明
高1522	ひかる	82.8	竜明 (高39)	くにひめ (2級大268)	大分県直入郡荻町 戸井田 光
高1523	しげひめ	84.9	重丸 (高45)	さかえ (高 147)	秋田県北秋田郡阿仁町 佐藤 平安
高1524	ひろみ	84.3	弦重 (高54)	第一みどり (1級23674)	熊本県下益城郡松橋町 浦田 一満
高1525	第三かくえい	82.0	久旗 (高29)	第一かくえい (本7373)	〃 〃 〃 〃
高1526	みゆき	80.6	久旗 (高29)	はつはな (1級20713)	〃 〃 小川町 藤坂 光秋
高1527	さちこ	83.8	白岩 (高52)	ちぐさ (1級42048)	〃 〃 中央町 沢田 隆
高1528	さちこ	81.9	蘇明 (高30)	はじめ (高 752)	〃 上益城郡矢部町 成瀬幸太郎

高等登録番号	名号	得点	血統 父	血統 母	所有者
高1529	みつえ	83.2	第四栄 (1級383)	みつひかり (1級33568)	熊本県上益城郡矢部町 和田 幸吉
高1530	せい	83.2	第四栄 (1級383)	をせ (1級34026)	〃 〃 〃 吉田 政光
高1531	ゆかり	81.9	白岩 (高52)	はたみどり (1級28716)	〃 〃 〃 山下四十三
高1532	第五ゆり	83.1	草桜 (本1005)	なみ (1級 1878)	〃 菊池市西寺 中川 竜男
高1533	ひめゆり	81.4	原美 (高46)	かつえ (1級19656)	〃 上益城郡益城町 松本 良人
高1534	とみえ	80.9	岩風 (1級412)	おはる (2級熊15356)	〃 阿蘇郡小国町 時松 四郎
高1535	かつみ	82.9	草桜 (本1005)	はつみ (高 77)	〃 人吉市井の口町 地内 伝次
高1536	ゆき	82.6	蘇殖 (高56)	みつひめ (1級34487)	〃 〃 上漆田町 永田 隆
高1537	第一そふく	81.7	草光 (1級389)	そふく (1級21802)	〃 〃 上村 弘
高1538	ふくひめ	81.2	光力 (高27)	さち (1級15192)	〃 〃 上薩摩瀬町 小野 政光
高1539	はるめ	82.2	浜藤 (高17)	はつこ (予熊47678)	〃 〃 矢黒町 山本 繁夫
高1540	第五てるもみじ	85.2	蘇殖 (高56)	てるもみじ (高 828)	〃 球磨郡錦町 森田 真
高1541	みつ	81.1	蘇月 (高35)	第八ひかり (高 996)	〃 〃 〃 尾方 郁男
高1542	このはな	80.3	永球 (1級417)	はつみ (1級29088)	〃 〃 〃 小田 年喜
高1543	みつひめ	80.5	重吉 (高25)	ममこ (1級22812)	〃 〃 〃 川口 盛介
高1544	みつ	83.3	蘇殖 (高56)	みゆき (高1067)	〃 〃 上村 才藤 憲三
高1545	むつめ	80.1	球光 (高26)	はなこ (1級 1068)	〃 〃 〃 中村 清一
高1546	めぐみ	81.2	蘇月 (高35)	はな (高 502)	〃 〃 〃 樅木 孝義
高1547	第三ふじ	83.2	蘇月 (高35)	ふじ (高 435)	〃 〃 免田町 那須 安富
高1548	はつめ	81.2	竜浦 (高19)	はつひめ (高 645)	〃 〃 〃 尾方 保
高1549	ふくひめ	85.5	永球 (1級417)	第五いくみ (高1376)	〃 〃 岡原村 松尾 仲良
高1550	ふく	81.4	蘇月 (高35)	ふくみ (2級熊8999)	〃 〃 〃 東 忠雄
高1551	第一はつめ	82.1	重房 (1級398)	第三はつめ (高 867)	〃 〃 多良木町 小場 義明
高1552	ふたひめ	82.7	永球 (1級417)	ゆり (1級34455)	〃 〃 〃 新堀 文夫
高1553	きよひめ	84.4	球宝 (1級416)	なるみ (1級32996)	〃 〃 〃 尾方 秀信
高1554	第十一つるはな	84.3	球泉 (1級463)	つるはな (高 573)	〃 〃 〃 愛甲 文範

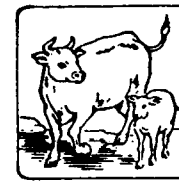
高等登録番号	名号	得点	血統 父	血統 母	所有者
高1555	きよさかえ	82.2	蘇殖 (高56)	さかえ (1級11931)	熊本県球磨郡多良木町 野田 久幸
高1556	うめ	81.0	蘇月 (高35)	かんぎく (高 635)	〃 〃 湯前町 渋谷 巽
高1557	はつひめ	82.0	蘇殖 (高56)	ふくまつ (1級24851)	〃 〃 〃 的場 光雄
高1558	さかえ	82.2	蘇月 (高35)	ふくひめ (1級31807)	〃 〃 須恵村 恒松 永吉
高1559	はなふく	84.2	蘇月 (高35)	ふくひめ (高 869)	〃 〃 深田村 長船 清徳
高1560	みつひめ	83.5	永球 (1級417)	みつえい (1級31865)	〃 〃 相良村 綱木 一隆
高1561	たけ	81.7	光力 (高27)	うめ (1級25033)	〃 〃 〃 犬童 峰男
高1562	ふくひめ	80.7	蘇殖 (高56)	さくら (高1045)	〃 〃 〃 宮原 清人
高1563	さくら	82.9	竜明 (高39)	はつさくら (本5880)	〃 〃 球磨村 西 文太郎
高1564	さちこ	83.8	重福 (高47)	さちよ (1級33458)	〃 菊池郡大津町 古庄 房年
高1565	みえこ	80.0	蘇玉 (1級347)	さつき (高 523)	〃 〃 〃 小西 忠雄
高1566	きよみ	82.0	蘇玉 (1級347)	みつはな (2級熊12158)	〃 〃 〃 西本 政弘
高1567	しげさち	81.0	重金 (1級441)	はつよし (1級33123)	〃 鹿本郡菊鹿町 富田 聖輝
高1568	ふくまる	85.5	浦月 (1級259)	まるえい (1級10807)	〃 〃 〃 渡辺 貢
高1569	第二はるとみ	83.0	国盛 (高33)	とみひで (高 696)	〃 〃 鹿央町 松村 剛
高1570	きくこ	80.9	蘇南 (高34)	よしこ (1級31681)	〃 〃 植木町 三島 俊之
高1571	ゆうとく	83.6	光武 (高58)	ゆうせい (高 350)	〃 阿蘇郡白水村 小林 盛雄
高1572	ひでまる	83.7	重福 (高47)	ひでよし (高 457)	〃 〃 高森町 荒牧 仁
高1573	第十三ふじゆき	80.3	蘇月 (高35)	ふじゆき (高 354)	〃 〃 久木野村 松本 治夫
高1574	ゆうふく	81.5	蘇竜 (高55)	ゆうづき (1級40166)	〃 〃 高森町 杉田 武徳
高1575	きんえい	84.1	重福 (高47)	きりはな (予熊39691)	〃 〃 〃 栗焼 章聖
高1576	たつとみ	82.9	蘇竜 (高55)	まるふく (1級12384)	〃 〃 〃 阿南 和明
高1577	みつとみ	83.4	重福 (高47)	みつよ (1級30070)	〃 〃 〃 岩下九州男
高1578	としひめ	80.6	草光 (1級389)	ひめゆり (1級 3193)	〃 〃 〃 杉田 武徳
高1579	ふじなみ	81.4	重福 (高47)	わかば (1級 6089)	〃 〃 〃 赤木 竹利
高1580	第三さくら	81.4	重月 (1級299)	第一さくら (本6856)	〃 〃 〃 後藤 昭一

高等登録番号	名号	得点	血統 父	血統 母	所有者
高1581	ふくまつ	80.8	福花 (高31)	いちまつ (1級 4208)	熊本県阿蘇郡久木野村 古沢 俊一
高1582	くさよし	85.0	草南 (1級220)	よしだ (1級 7700)	〃 〃 〃 古沢 一也
高1583	ふくせい	80.0	福花 (高31)	ゆうせい (高 350)	〃 〃 高森町 杉田 武徳
高1584	ほうえい	84.3	福花 (高31)	ほうざん (1級 289)	〃 〃 〃 瀬井 文男
高1585	とちはな	80.5	福花 (高31)	とちふく (1級 235)	〃 〃 久木野村 栃原 幸一
高1586	たかはな	83.0	第二竜明 (高49)	すみれ (本5118)	〃 〃 高森町 城井 若生
高1587	ふくもり	81.8	福花 (高31)	つるはま (本6882)	〃 〃 〃 森 つるみ
高1588	すずらん	83.7	草南 (1級220)	すずみ (1級10555)	〃 〃 〃 野尻 明吾
高1589	はまはる	81.1	楠風 (1級108)	はるひめ (本5743)	〃 〃 〃 工藤 月子
高1590	七ふく	82.9	第二草桜 (1級239)	だいこく (本8322)	〃 〃 〃 児玉 守
高1591	第九ふくえい	80.5	重梅 (1級301)	ふくえい (予熊44338)	〃 玉名市青野 高津 一男
高1592	第六さかえ	82.0	重波 (高48)	さかえ (2級熊19425)	〃 阿蘇郡阿蘇町 森田仁八郎
高1593	第二たつひめ	83.2	重宝 (高40)	まる (高1128)	〃 〃 波野村 後藤 義行
高1594	たつさかえ	81.5	第二重川 (高53)	たつはな (高1030)	〃 〃 阿蘇町 坂口 静義
高1595	はなうめ	82.3	重宝 (高40)	うめはな (1級20363)	〃 〃 波野村 高日 清光
高1596	第二まるはな	82.7	竜明 (高39)	第一まるはな (1級 7138)	〃 〃 阿蘇町 宮本 広喜
高1597	はるはな	82.1	第三栄 (高37)	はるさかえ (高 742)	〃 〃 産山村 森本 幸隆
高1598	さかえ二	85.3	朝玉 (1級 63)	第一さかえ (1級27029)	〃 〃 阿蘇町 河原 重之
高1599	はるさかえ	82.2	第二重川 (高53)	とみさかえ (2級熊5582)	〃 〃 〃 上島 茂
高1600	第三ひかり	85.9	福花 (高31)	ひかり (高 359)	〃 〃 〃 岩下 興典
高1601	まさ	83.3	重宝 (高40)	みつえい (高 541)	〃 〃 波野村 入田 市次
高1602	つえたから	82.7	第三栄 (高37)	ふじたから (1級12404)	〃 〃 産山村 井 信行
高1603	第一さかえ	81.4	中堀 (高38)	たまえい (1級 6856)	〃 〃 阿蘇町 中村 太助
高1604	きくえい	83.1	菊藤 (1級499)	第二たまさかえ (1級34697)	〃 鹿本郡菊鹿町 金光 一山
高1605	ひめ	81.3	重房 (1級398)	ひめゆり (1級20110)	〃 球磨郡多良木町 右田 年行
高1606	第四ふくみ	82.2	蘇玉 (1級347)	ふじ (高 426)	〃 菊池郡大津町 大村 純雄

高等登録番号	名号	得点	血統 父	血統 母	所有者
高1607	ふくみどり	82.2	蘇明 (高30)	よしふく (1級 7298)	熊本県上益城郡矢部町 坂本義雄
高1608	まちさかえ	81.4	重栄 (1級479)	まちこ (2級熊21919)	〃 阿蘇郡長陽村 熊本種畜牧場阿蘇支場
高1609	くさにしき	83.2	草光 (1級389)	にしきひかり (2級熊14249)	〃 〃 〃 〃 〃
高1610	いずみ	84.2	重旗 (1級209)	第三たから (本5024)	〃 〃 小国町 梅木 亀鶴
高1611	第五ふじ	82.2	第二重川 (高53)	第四ふじ (1級32112)	〃 鹿本郡鹿央町 藤本 達也
高1612	たまる	83.0	重福 (高47)	はつえい (1級34720)	〃 阿蘇郡高森町 本田 道明
高1613	しげみつ	84.3	重福 (高47)	たけなが (高 891)	〃 〃 〃 田上 求
高1614	ふくりゅう	87.0	草光 (1級389)	ふくなり (1級12828)	〃 〃 久木野村 藤崎 急
高1615	第三なみしげ	81.2	楠金 (1級361)	なみしげ (1級25817)	〃 〃 蘇陽町 佐藤 照夫
高1616	かずさわ	81.5	重福 (高47)	かずはな (高 655)	〃 〃 高森町 古沢 一喜
高1617	あき	83.7	重福 (高47)	さかえ (1級19715)	〃 〃 蘇陽町 山口牧人
高1618	みやふく	81.7	蘇竜 (高55)	ふくみや (1級36665)	宮崎県西臼杵郡高千穂町 富高 正男
高1619	第五ちどり	81.6	蘇竜 (高55)	ちどり (1級17116)	熊本県阿蘇郡高森町 相馬 俊行
高1620	まつ	83.3	球福 (1級426)	なつぎく (1級10581)	〃 〃 〃 桐原 朝雪
高1621	さかえ	84.6	重福 (高47)	いみる (高 369)	〃 〃 白水村 大塚 実
高1622	うめ	80.9	福花 (高31)	はつざくら (1級 6221)	〃 〃 蘇陽町 飯星 敏
高1623	第一たけはな	80.6	蘇丸 (本1000)	たけはな (1級26638)	〃 〃 長陽村 長野 仁
高1624	ふじ	81.9	重福 (高47)	はまれい (本7555)	〃 〃 蘇陽町 田上 清則
高1625	はな	85.0	福陽 (本 791)	とみ (予黙47117)	〃 〃 〃 春日 五三
高1626	さかえ	81.5	球栄 (高24)	ほまれ (本1313)	〃 〃 〃 有働 福男
高1627	ふく	82.1	松房 (高60)	はつき (1級34245)	〃 人吉市東漆田町 樫山 繁治
高1628	しげとみ	82.5	重福 (高47)	しらかわ (1級 7652)	〃 〃 中神町 一橋 国弘
高1629	ふじ	81.0	松房 (高60)	ふくひめ (1級34490)	〃 球磨郡錦町 小田 今男
高1630	ふくみ	81.6	球光 (高26)	ふく (2級熊28085)	〃 〃 〃 浜田 栄
高1631	さくら	82.2	重房 (1級398)	はるひめ (1級 1990)	〃 〃 〃 深水 仁司
高1632	ふさひめ	80.6	重房 (1級398)	てるひめ (本7412)	〃 〃 上村 溝口 久

高等登録番号	名号	得点	血統 父	血統 母	所有者
高1633	さとひめ	80.4	球光 (高26)	はまひめ (1級 8284)	熊本県球磨郡上村 角部 春義
高1634	さつき	82.2	蘇月 (高35)	はるみ一 (高1354)	〃 〃 〃 上渕 定松
高1635	さくら	84.6	光力 (高27)	さかえ (1級32948)	〃 〃 〃 西 治吉
高1636	さち	83.4	蘇月 (高35)	さきひめ (高 872)	〃 〃 〃 中根 清美
高1637	第一あやこ	83.7	蘇殖 (高56)	あやこ (1級39881)	〃 〃 免田町 小見田球磨男
高1638	第六あやめ	83.5	第二重房 (1級483)	第五あやめ (1級24417)	〃 〃 〃 林 昭登
高1639	第三さんえい	83.0	房球 (1級464)	さんえい (高 997)	〃 〃 岡原村 白川 照子
高1640	みつひめ	83.1	蘇殖 (高56)	さかえ (2級熊21333)	〃 〃 〃 三宮 茂樹
高1641	なつめ	81.3	蘇月 (高35)	さかえ (1級 8521)	〃 〃 多良木町 尾方 稔
高1642	きくひめ	82.3	蘇月 (高35)	よしこ (高 503)	〃 〃 〃 柳原 繁美
高1643	ふく	83.1	蘇殖 (高56)	さかえ (2級熊8925)	〃 〃 〃 猪原 正利
高1644	みつえ	80.0	蘇月 (高35)	みつえ (高 630)	〃 〃 深田村 五島 政敏
高1645	はつはな	80.5	蘇月 (高35)	はつうめ (1級34284)	〃 〃 相良村 磯部 勇人
高1646	ふくひめ	82.2	球泉 (1級463)	はまひめ (1級 5003)	〃 〃 〃 原口二三十
高1647	さちひめ	84.1	蘇殖 (高56)	ふくひめ (高1071)	〃 〃 山江村 勝山 幸人
高1648	ふくえ	81.0	永球 (1級417)	ふくえい (1級31806)	〃 〃 〃 西 東
高1649	なつぎく	83.4	蘇殖 (高56)	ふくひめ (1級 3625)	〃 〃 球磨村 舟戸 大八
高1650	まさこ	83.8	福竜 (高57)	ふじ (高1203)	〃 鹿本郡鹿本町 芹川 要
高1651	はつひめ	82.9	菊栄 (高41)	第四たから (1級13095)	〃 〃 菊鹿町 竹村 政信
高1652	第三しげつる	80.8	第二重川 (高53)	第二つるとみ (1級26801)	〃 玉名市秋丸 宮本 哲男
高1653	はまむら	81.2	蘇竜 (高55)	はまさかえ (高 651)	〃 下益城郡砥用町 橋本 勇
高1654	まつ一	80.0	久旗 (高29)	まつ (1級19481)	〃 〃 〃 北本 昇
高1655	ひかり	80.5	菊玉 (高23)	よね (2級熊2302)	〃 〃 〃 米山 卓
高1656	ふくはる	80.9	福花 (高31)	はるよし (1級12279)	〃 〃 〃 塚原 勲
高1657	しらたま	86.9	白岩 (高52)	ふえる (高1042)	〃 〃 松橋町 佐々木 力
高1658	第三あさみ	84.3	重栄 (1級346)	あさみ (1級31206)	長崎県上県郡上県町 緒方 儀雄

高等登録番号	名号	得点	血統 父	血統 母	所有者
高1659	きくふじ	80.4	重川 (1級191)	きよふじ (予熊30706)	長崎県上県郡峰町 中村 清
高1660	わたる	84.0	重栄 (1級346)	くさまる (1級14776)	〃 〃 〃 鳥居 賢実
高1661	第三ふじ	82.6	重丸 (1級366)	さかえ (1級15500)	〃 下県郡美津島町 西山 勤
高1662	みのる	83.7	第二竜明 (高49)	たつめ (1級24594)	熊本県玉名郡南関町 大倉 市夫



◎ あか牛子牛市況

（57年８月～12月）

県別	開催年月日	市場名	性別	頭数	最高価格	最低価格	平均価格
秋田県	57 8．24	北秋田	めす	69	533,000円	100,000円	275,884円
			おす	1	269,000	269,000	269,000
			去勢	79	403,000	130,000	304,139
	8．25	二ツ井	めす	40	601,000	200,000	313,650
			おす	39	365,000	260,000	316,923
	10．20	能代	めす	58	706,000	233,000	312,862
			去勢	63	381,000	231,000	319,333
	10．21～22	阿仁合	めす	77	600,000	76,000	200,442
			おす	34	227,000	96,000	152,588
			去勢	51	400,000	150,000	241,020
	10．23	前田	めす	39	364,000	80,000	160,282
			おす	33	208,000	84,000	151,545
			去勢	23	351,000	100,000	216,913
	10．25～26	北秋田	めす	66	773,000	129,000	324,439
			去勢	56	399,000	214,000	315,375
	12．14	能代	めす	66	601,000	171,000	272,984
			去勢	76	377,000	181,000	267,881
	12．15	北秋田	めす	60	754,000	99,000	288,883
			おす	1	643,000	643,000	643,000
			去勢	59	406,000	117,000	308,542
長崎県	11．9	対馬	めす	93	347,000	71,000	186,333
			おす	22	205,000	124,000	167,000
			去勢	109	314,000	105,000	203,972
熊本県	8．9	小国	めす	98	520,000	126,000	210,244
			おす	3	163,000	131,000	145,333
			去勢	112	366,000	142,000	246,701
	8．20	江田	めす	36	410,000	149,000	241,333
			おす	5	315,000	143,000	236,800
			去勢	36	305,000	50,000	231,722
	8．21	大津	めす	114	1,105,000	140,000	284,895
			おす	1	500,000	500,000	500,000
			去勢	148	378,000	130,000	274,514
	8．22～23	菊池	めす	204	922,000	171,000	303,740
			おす	5	550,000	271,000	390,400
			去勢	207	361,000	170,000	252,304

熊本県	8．24	山　鹿	めす	149	900,000	76,000	296,946
			おす	3	245,000	181,000	216,667
			去勢	187	385,000	135,000	257,326
	8．25～27	球　磨	めす	412	1,400,000	84,000	301,211
			おす	14	520,000	146,000	220,643
			去勢	444	373,000	142,000	255,885
	9．3	下益城	めす	109	1,200,000	101,000	320,146
			おす	4	289,000	247,000	262,000
			去勢	124	343,000	130,000	249,565
	9．4	山　西	めす	49	770,000	115,000	253,082
			おす	4	400,000	240,000	308,750
			去勢	72	307,000	130,000	232,278
	9．5～7	高　森	めす	465	2,500,000	121,000	285,000
			おす	20	500,000	150,000	241,150
			去勢	565	405,000	125,000	257,051
	9．10	上益城	めす	45	720,000	143,000	244,244
			おす	27	295,000	118,000	221,888
			去勢	31	302,000	135,000	242,322
	9．11～12	矢　部	めす	231	1,320,000	100,000	276,294
			おす	4	550,000	182,000	318,000
			去勢	288	375,000	122,000	253,659
	9．17～19	阿　蘇	めす	539	1,203,000	205,000	314,374
			おす	13	654,000	214,000	330,384
			去勢	659	412,000	203,000	298,320
	10．9	小　国	めす	100	506,000	87,000	234,170
			おす	5	440,000	170,000	269,400
			去勢	136	394,000	149,000	245,257
	10．15	玉　名	めす	43	405,000	176,000	251,139
			去勢	37	333,000	90,000	244,513
	10．16	南　関	めす	21	306,000	201,000	241,142
			おす	8	281,000	140,000	224,875
			去勢	11	280,000	185,000	245,272
	10．25～27	球　磨	めす	480	1,500,000	133,000	275,793
			おす	7	284,000	212,000	239,714
			去勢	530	360,000	112,000	264,279
	11．17～19	阿　蘇	めす	487	1,504,000	57,000	282,123
			おす	5	602,000	319,000	428,000
			去勢	614	447,000	127,000	277,115
	11．21	大　津	めす	127	1,160,000	115,000	261,732
			おす	1	480,000	480,000	480,000
			去勢	159	366,000	117,000	157,472

熊本県	11. 22～23	菊池	めす	188	1,100,000	125,000	248,771
			おす	3	525,000	273,000	364,667
			去勢	248	385,000	120,000	257,028
	11. 24	山鹿	めす	197	1,010,000	130,000	266,030
			おす	3	480,000	200,000	305,000
			去勢	189	347,000	110,000	265,587
	11. 25～26	矢部	めす	318	1,501,000	30,000	240,572
			おす	2	530,000	168,000	349,000
			去勢	412	340,000	75,000	231,419
	11. 27	上益城	めす	91	390,000	108,000	182,417
			おす	33	284,000	194,000	212,512
			去勢	42	292,000	113,000	219,404
	11. 28	下益城	めす	135	950,000	96,000	271,815
			おす	6	500,000	145,000	254,667
			去勢	159	370,000	110,000	243,906
	12. 4	山西	めす	79	700,000	121,000	226,089
			おす	3	209,000	110,000	150,000
			去勢	100	320,000	130,000	242,450
	12. 5～7	高森	めす	543	3,600,000	100,000	271,112
			おす	15	530,000	110,000	203,933
			去勢	662	420,000	86,000	250,015
	12. 9	小国	めす	87	460,000	80,000	201,379
			おす	4	265,000	152,000	187,500
			去勢	101	350,000	45,000	228,168
	12. 13～15	球磨	めす	468	2,500,000	50,000	266,028
			おす	9	620,000	164,000	254,000
			去勢	596	395,000	118,000	235,826

謹　賀　新　年

昭和58年元旦

社団法人 日本あか牛登録協会

会長	堀　力	理事	佐藤鉄山
副会長	澤田治男	理事	高田昭二郎
常務理事	城　光宣	理事	国武　博
常務理事	山部龍三	理事	上田広喜
理事	今村　来	理事	帆保義信
理事	小林友寿	理事	池本広志
理事	成田広造	理事	小林俊夫
理事	野口勝次郎	理事	北里達之助
理事	市川昭吉	監事	増本健一
理事	河津幸喜	監事	緒方清臣
理事	佐藤平安	監事	梅下国雄

刊行物頒布案内

○**褐毛和種登録簿**（各巻1冊）…… 4,000円

○**褐毛和種正常発育曲線**（雄・雌各1部）…… 500円

○**機関誌「あか牛」**（各号1部）…… 200円

○**褐毛和種審査必携**（2組）…… 100円

○**あか牛の経済性に関する研究**…… 1,200円

○**「日本あか牛登録協会30年の歩み」**…… 1,500円

代金前納申込みのこと

申込先……熊本市草葉町1－21　畜産会館内

社団法人　日本あか牛登録協会

第50号

昭和58年1月20日印刷
昭和58年1月25日発行

編集　川崎広通

発行所　日本あか牛登録協会
熊本市草葉町1－21
畜産会館内
振替　熊本1510
TEL(0963)56－7597
〒860

印刷者
村嶋農志郎

印刷所
村島印刷
熊本市小山町423
TEL(80)7095
〒861-22